

**【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】**

分野等	専門・基礎看護学	配当学年・時期	1年次・前期	担当講師名	
授業科目名	看護学概論	単位数・時間数等	1 単位 30 時間	専任教員	
		授業回数	14回 + 試験		
<p><b>[概要]</b>            看護学概論は、看護を学ぶ上での導入部分である。看護全体の主要概念を理解し、各看護学に共通する看護行為の基礎となる知識、技術、態度を学ぶとともに、自己の看護観、人間観を培い、看護専門職者としての自覚と責任を養う内容とする。</p> <p><b>[目標]</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の歴史的変遷、看護理論家による看護のとらえ方、看護職能団体による看護の定義を学び、看護の本質とは何かについて考える。《看護とは》</li> <li>2. 看護の対象である人間を理解する。《人間とは》 (解剖生理学・病態生理、生理学・心理学的理論、成長発達理論、生活者としての人間の理解)</li> <li>3. 看護の継続性と多職種連携・協働の重要性を理解する。</li> <li>4. 健康とはなにか、障害とはなにかどう捉えるかを理解する。《健康とは》</li> <li>5. わが国の看護職（看護師、准看護師、保健師、助産師）の資格と養成制度について学ぶ。</li> <li>6. わが国の看護職者の就業状況と免許取得後の継続教育、「キャリア開発」について考える。</li> <li>7. わが国の看護職者の養成と教育における問題点と課題を理解する。</li> </ol>					
授業回数	【授業内容】			学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）	
1	<p>《事前課題》            教科書の序論を読み、項目毎に内容をまとめ、看護が最も得意とするケアについてレポートする。</p> <p>1 看護とは            看護の本質            看護の変遷 ナイチンゲール誕生前後の世界の歴史、アメリカの看護</p>			個人ワーク・レポート 講義	
2・3	<p>2・3 看護の定義            看護のメタパラダイスについて</p>				
4	4 看護の役割と機能			グループワーク演習 DVD視聴	
5・6	5・6 看護の対象の理解				
7・8	7・8 国民の健康状態と生活 健康のとらえ方 健康の定義 《健康と環境》《健康に影響を及ぼす要因》《順応と適応》 《プライマリヘルスケア》《ヘルスプロモーション》 障害とはなにか				
9・10	9・10 国民の健康状態と生活 統計的に健康を見る				
11	11 看護の提供者				
↓	課題演習 フローレンス・ナイチンゲール 看護についての考え方 バージニア・ヘンダーソン 看護についての考え方				
14	14 課題発表				
15	15 学科終了試験				
【使用テキスト】			【単位・成績の認定方法】		
系統別看護学講座 基礎看護学 看護学概論（医学書院）			筆記試験		
【参考文献】			課題への取り組み		
看護覚え書（照林社）					
看護の基本となるもの（日本看護協会出版社）					
【自己学習時間】		【事前・事後学習】			
15 時間		テキストの関連部分読む(予習) 前回の講義資料を復習する 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する			
【実務経験と当該科目との関連】					
・臨床経験がある教務課長が担当					

## 【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】

分野等	専門・基礎看護学	配当学年・時期	1年次・前期	担当講師名
授業科目名	共通基本技術	単位数・時間数	1 単位 30 時間	専任教員
		授業回数	14回+試験	
[概要] あらゆる看護技術の基礎として、看護活動に共通するコミュニケーションと安全確保の基礎を学ぶ。				
[目標] 1. 看護におけるコミュニケーションの意義と目的が説明できる。 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程を説明できる。 3. 関係構築のためのコミュニケーションの基本を説明できる。 4. 効果的なコミュニケーションの技術を体験的に実施できる。 5. コミュニケーション障害を持つ患者の対応が説明できる。 6. 安全確保の基礎知識とチューブ類の事故防止、患者の誤認防止、転倒転落のリスクアセスメントと具体策について説明できる。 7. 転倒転落のリスクアセスメントと防止策の理解、薬剤・放射線曝露防止の方法を説明できる。				
授業回数	【授業内容】			学習形態（講義、GW、PP、DVD等）
1	看護技術の特徴、看護技術の要素、コミュニケーションの意義			講義（PP）
2	看護・医療におけるコミュニケーション・目的・構成要素・成立過程			講義（PP）
3	関係構築のためのコミュニケーションの基本:接近的コミュニケーションの前提となる基本的態度			講義（PP）
4	関係構築のためのコミュニケーションの基本:接近的行動			講義（PP）
5	コミュニケーション技術の演習①			演習、講義
6	効果的なコミュニケーションの実際：傾聴・情報収集・説明・アサーティブ			講義（PP）
7				
8	コミュニケーション技術の演習②			演習、講義
9	コミュニケーション障害の患者への対応			講義（PP）
10	コミュニケーション技術の演習③			GW、講義
11	安全確保の技術の基礎、誤薬防止			講義（PP）
12	チューブ類の事故防止、患者誤認防止			講義（PP）
13	転倒・転落防止、薬剤・放射線曝露の防止			講義（PP）
14	安全確保の技術の演習①			演習、講義
15	学科終了試験			
【使用テキスト】 医学書院			【単位・成績の認定方法】	
主) 系統看護学講座 基礎看護技術 I P2～P16・P18～P62・P104～P122			筆記試験：70% 出欠席：5% 提出物：20% 演習時の身支度：5%	
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
15時間		前回の講義資料を復習し、次回の授業の予習をする。 課題提示された場合は、課題提出日に間に合うように取り組む。		
【実務経験と当該科目との関連】				
・臨床経験がある専任教員が担当				

**【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】**

分野等	専門・基礎看護学	配当学年・時期	1年次・前期	担当講師名	
授業科目名	生活援助技術 I	単位数・時間数	1 単位 30 時間	専任教員 2名	
		授業回数	14回 + 試験		
[概要] 療養生活を送る患者の療養環境を整えるための環境調整の技術と感染予防の技術の基礎を学ぶ。					
[目標] 1. 療養生活の環境を構成する要素を理解し、病室・病床のアセスメントと調整について理解することができる。 2. ベッド周囲と病床の環境整備、ベッドメイキング、リネン交換の方法を理解することができる。 3. 臥床患者のリネン交換を実施することができる。 4. 感染とその予防の基礎知識を理解することができる。 5. 標準予防策・感染経路別予防策の基礎知識を理解することができる。 6. 手指衛生が実施することができる。					
授業回数	【授業内容】			学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）	
1	療養生活の環境	病室の環境のアセスメントと調整			
2 ↓ 5	ベッド周囲の環境整備 病床を整える	ベッドメイキング			講義 演習
6 ↓ 9	病床を整える	リネン交換			講義 演習 ※技術試験
10	感染とその予防の基礎知識 感染と感染症	感染成立の条件 感染予防			講義 *
11	標準予防策				講義・演習 *
12	感染経路別予防策				講義 *
13 ↓ 14	技術試験（臥床患者のリネン交換）				
	学科終了試験				
【使用テキスト】 医学書院				【単位・成績の認定方法】	
主) 系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 I 基礎看護学（第 2 章 p 64～81、92～94） 系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 II 基礎看護学（第 1 章 p 9～26）				筆記試験 100点満点 6 割評価 技術試験 100点満点 4 割評価	
副) 看護がみえるVOL. 1 基礎看護技術（メディックメディア）				※筆記、技術それぞれ 6 割満たない場合は再試験	
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		【実務経験と当該科目との関連】	
15時間		テキストの関連部分読む(予習) 前回の講義資料を復習する 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する 自己練習をして技術試験に臨む		・臨床経験がある専任教員2名が担当	

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】

分野等	専門・基礎看護学	配当学年・時期	1年次・前期	担当講師名
授業科目名	生活援助技術Ⅱ	単位数・時間数	1単位 30時間	専任教員
		授業回数	14回 + 試験	
<p>[概要] 人間の基本的な欲求である食事と排泄に関する知識と技術を学ぶ。 対象の健康の回復、保持、増進のための食事と排泄の意義を理解する。</p> <p>[目標] 1. 食事援助の基礎知識が理解できる。 2. 食事摂取の介助ができる。 3. 摂食嚥下訓練の基礎知識が理解できる。 4. 非経口的栄養摂取の援助の基礎知識が理解できる。 5. 経鼻胃チューブの挿入ができる。 6. 自然排尿及び自然排便の基礎知識が理解できる。 7. 床上排泄援助が実施できる。 8. 導尿の基礎知識が理解できる。 9. 排便を促す援助の基礎知識が理解できる。 10. モデル人形に対して排便を促す援助（浣腸、摘便）が実施できる。</p>				
授業回数	【授業内容】			学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
1	食事援助の基礎知識 栄養状態および摂食能力、食欲や食に対する認識のアセスメント			講義
2	医療施設で提供される食事の種類と形態			
3	食事摂取の介助	援助の基礎知識	援助の実際	講義・演習
4	摂食嚥下訓練	援助の基礎知識	援助の実際	↓
5	↓			↓
6 ↓ 8	非経口的栄養摂取の援助 経管栄養法の基礎知識 経鼻経管栄養法の実際 中心静脈栄養法			講義・演習
9	自然排尿および自然排便の基礎知識 排泄の意義 排泄器官の機能と排泄のメカニズム			講義・演習
10	患者の状態に応じた援助の決定するためのアセスメント 自然排尿および自然排便の介助の実際			↓
11	トイレにおける排泄介助 床上排泄援助 オムツによる排泄援助			↓
12	導尿の基礎知識	導尿の基礎知識援助の実際		講義・演習
13	排便を促す援助			講義・演習
14	排便を促す援助の基礎知識	浣腸	摘便	↓
	学科終了試験			
【使用テキスト】 医学書院			【単位・成績の認定方法】	
主) 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ p29～p61 p65～p93			筆記試験 レポート	
【自己学習時間】	【事前・事後学習】		【実務経験と当該科目との関連】	
15時間	前回の講義資料を復習する テキストの関連部分読む 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		・臨床経験がある専任教員が担当	

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】

分野等	専門・基礎看護学	配当学年・時期	1年次・後期	担当講師名
授業科目名	生活援助技術Ⅲ	単位数・時間数	1 単位 30 時間	専任教員
		授業回数	14回 + 試験	
[概要]				
対象の生活における活動と休息の意義と活動と休息を助けるための知識と技術を学ぶ。				
看護独自の機能である、苦痛の緩和と安楽の確保の知識と技術を学ぶ。				
[目標]				
1. よい姿勢とボディメカニクスの知識を理解することができる。				
2. 体位についての知識を理解することができる。				
3. 体位変換の知識を理解することができる。				
4. 体位変換が実施できる。				
5. 歩行の知識を理解することができる。				
6. 移乗と移送の知識を理解することができる。				
7. 移乗と移送を実施することができる。				
8. 体位保持（ポジショニング）の知識を理解することができる。				
9. 体位保持（ポジショニング）を実施することができる。				
10. 褥法の知識を理解することができる。				
11. 身体ケアを通じてもたらされる安楽の知識を理解することができる。				
授業回数	【授業内容】			学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
1 ↓ 2	基本的活動の基礎知識 よい姿勢 ボディメカニクス			講義・演習
3 ↓ 6	体位と移動（体位変換） 体位保持 体位変換の基礎知識 援助の実際			↓
7 ↓ 9	歩行と移乗・移送 車椅子 ストレッチャー			↓
10 ↓ 12	身体ケアを通じてもたらされる安楽の基礎知識 足浴 リラクゼーション法			講義 講義・演習
13	褥法の基礎知識			講義
14	睡眠と休息の援助の基礎知識			
	学科終了試験			
【使用テキスト】 医学書院			【単位・成績の認定方法】	
主) 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ p103～p168			筆記試験 80%	
副) 看護がみえるVOL. 1 基礎看護技術（メディックメディア）			レポート課題・演習状況 20%	
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		【実務経験と当該科目との関連】
15時間		テキストの関連部分読む(予習) 前回の講義資料を復習する 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		・臨床経験がある専任教員が担当

**【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】**

分野等	専門・基礎看護学	配当学年・時期	1年次・後期	担当講師名	
授業科目名	生活援助技術Ⅳ	単位数・時間数	1 単位 30 時間	専任教員 2名	
		授業回数	14回 + 試験		
[概要] 人間の尊厳を保持し、健康の回復促進をもたらす清潔と衣生活の意義を理解し、基礎的な知識と援助の実際を学ぶ。					
[目標] 1. 清潔の援助の基礎知識を理解することができる。 2. 入浴・シャワー浴の援助の知識を理解することができる。 3. 全身清拭の知識を理解することができる。 4. 全身清拭を実施することができる。 5. 洗髪を知識を理解することができる。 6. 床上での洗髪を実施することができる。 7. 部分浴（手浴・足浴とフットケア）の知識を理解することができる。 8. 陰部洗浄の知識を理解することができる。 9. モデル人形を用いて陰部洗浄を実施することができる。 10. 整容の方法を理解することができる。 11. 口腔ケアの知識を理解することができる。 12. 口腔ケアを実施することができる。					
授業回数	【授業内容】			学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）	
1	清潔の援助の基礎知識 皮膚・粘膜の構造 清潔援助の効果 患者の状態に応じた援助の決定と留意点 清潔援助の実際 入浴・シャワー浴			講義	
2	病床での衣生活の援助 病衣・寝衣の交換の実際			講義	
3	寝衣交換の演習			演習	
4					
5	清潔援助の実際 全身清拭			演習	
6					
7	清潔援助の実際 全身清拭			演習	
8					
	技術試験 全身清拭				
9	清潔援助の実際 部分浴（陰部洗浄）口腔ケアの基礎知識			講義 *	
10	清潔援助の実際 （口腔ケア、陰部洗浄）			演習 *	
11	清潔援助の実際 部分浴（手浴、足浴） 整容			講義	
12	清潔援助の実際 （洗髪）			演習	
13	清潔援助の実際 洗髪			演習	
14					
	技術試験 洗髪				
15	学科終了試験				
【使用テキスト】 医学書院			【単位・成績の認定方法】		
主) 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ p171～ p 231			筆記試験 100点満点 6割評価		
副) 看護がみえるVOL. 1 基礎看護技術 (メディックメディア)			技術試験 100点満点 4割評価 ※筆記、技術それぞれ6割満たない場合は再試験		
【自己学習時間】	【事前・事後学習】		【実務経験と当該科目との関連】		
15時間	テキストの関連部分読む(予習) 前回の講義資料を復習する 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する 自己練習をして技術試験に臨む		・臨床経験がある専任教員2名が担当		

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】

分野等	専門・基礎看護学	配当学年・時期	2年次・前期	担当講師名
授業科目名	診療の補助技術	単位数・時間数	1 単位 30 時間	専任教員 外部講師
		授業回数	14回 + 試験	
[概要] 安全性と安楽性を保障した診療の補助技術を学ぶ。				
[目標]				
1. 診療の補助における看護師の役割と機能を理解することができる。				
2. 呼吸循環を整える技術を理解することができる。				
3. 与薬の技術の知識を理解することができる。				
4. 注射の知識を理解することができる。				
5. 筋肉内注射を実施することができる。				
6. 輸血管理の知識を理解することができる。				
7. 創傷管理の知識を理解することができる。				
8. 症状・生体機能管理技術を理解することができる。				
9. 感染予防、医療器具の管理、洗浄・消毒・滅菌、無菌操作の実際について理解することができる。 個人防護具の装着を実施することができる。				
10. 診療・検査・処置における技術を理解することができる。				
授業回数	【授業内容】			学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
1 ↓ 2	与薬の技術 与薬の基礎知識 薬物の基本的性質 看護師の役割 経口与薬・口腔内与薬 点眼 点鼻 経皮的与薬 直腸内与薬			講義
3 ↓ 4	注射の基礎知識 注射の実施法 皮下注射 皮内注射 筋肉内注射 静脈内注射 輸血管理			演習
5 ↓ 7	診療の補助における看護師の役割と機能 酸素療法（酸素吸入療法） 排痰ケア 体位ドレナージ 咳嗽介助・ハフイング吸引（口腔内、鼻腔内、気管内）吸入			講義 講義・演習
8	創傷管理技術			講義・演習
9 ↓ 10	症状・生体機能管理技術 血液検査 血糖測定 静脈血採血 尿検査 ↓（静脈血採血）			講義・演習
11	検査・処置の技術（穿刺）			講義
12 ↓ 14	標準予防策（PPE）洗浄・消毒・滅菌 無菌操作 感染性廃棄物の取り扱い・針刺し防止策・医療施設における感染管理			講義・演習
学科終了試験				
【使用テキスト】 医学書院			【単位・成績の認定方法】	
主) 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 第2章 D.E.G.H 基礎看護技術Ⅱ 第7.8.9.11.12章			筆記試験 90% レポートと演習状況 10%	
【自己学習時間】	【事前・事後学習】		【実務経験と当該科目との関連】	
15時間	テキストの関連部分読む(予習) 前回の講義資料を復習する 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		実務経験がある看護師と臨床経験がある専任教員が担当	

**【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】**

分野等	専門・基礎看護学	配当学年・時期	1年次・後期	担当講師名
授業科目名	ヘルスアセスメントⅠ	単位数・時間数	1単位 30時間	外部講師
		授業回数	14回＋試験	
[概要]				
対象者の日常生活レベルを把握し、適切な日常生活援助をするための理解し、日常生活行動に即したヘルスアセスメントの技術を習得する。				
[目標]				
1. ヘルスアセスメントの意義と目的が理解できる。				
2. 全体の概観の知識を理解できる。				
3. 健康状態のアセスメントとしてのバイタルサインの観察の知識を理解できる。				
4. バイタルサインを正しく測定することができる。				
5. 循環器系のフィジカルアセスメントが実施できる。				
6. 神経系のフィジカルアセスメントが実施できる。				
7. 呼吸器系のフィジカルアセスメントが実施できる。				
8. 筋・骨格系のフィジカルアセスメントが実施できる。				
9. 頭部のフィジカルアセスメントが実施できる。				
授業回数	【授業内容】			学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
1	ヘルスアセスメントとは 健康歴とセルフケア能力のアセスメント			講義
2・3	全体の概観 視診・打診・聴診・触診 全身状態の把握 身体計測			講義・演習
4 ↓ 6	生きていることのアセスメント バイタルサインの観察と測定 体温 脈拍 呼吸 血圧 意識			講義・演習
7 8	日常生活行動を支えるからだの機能のアセスメント 体液のバランス、恒常性維持のための物質の流通（循環器系） 恒常性維持のための調節機構（神経性調節）			講義・演習
9・10	技術試験 バイタルサインの測定			
11 ↓ 14	日常生活行動を遂行するための身体の機能のアセスメント 息をする：呼吸器系 他 動く：筋・骨格系 他 食べる：頭部、腹部（消化器系） トイレに行く：腹部（消化器・腎臓・泌尿器）、神経系			講義・演習
	学科終了試験			
【使用テキスト】 医学書院			【単位・成績の認定方法】	
主) 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ			筆記試験、レポート	
副) 日常生活行動からみるヘルスアセスメント（日本看護協会出版会）			技術試験	
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
15時間		テキストの関連部分読む等、予習をして授業に臨む 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する バイタルサインの測定はは自主練習を積み重ねて技術を習得する		
【実務経験と当該科目との関連】				
・実務経験がある保健師が担当				



**【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】**

分野等	専門・基礎看護学	配当学年・時期	2年次・前期	担当講師名
授業科目名	ヘルスアセスメントⅡ	単位数・時間数	1単位 15時間	外部講師
		授業回数	7回 + 試験	
[概要]				
<p>対象者の日常生活レベルを把握し、適切な日常生活援助をするための理解し、日常生活行動に即したヘルスアセスメントの技術を習得する。</p> <p>生命の危機状態にある患者の原因の追及と、緊急度・重症度を迅速にアセスメントする知識を理解する。</p>				
[目標]				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーションに関係するからだの機能をアセスメントすることができる。</li> <li>2. 眠ることに関係するからだの機能をアセスメントすることができる。</li> <li>3. お風呂に入ることに関係するからだの機能をアセスメントすることができる。</li> <li>4. 子どもを生むことに関係するからだの機能をアセスメントすることができる。</li> <li>5. 生命の危機状態にある患者の原因の追及と、緊急度・重症度を迅速にアセスメントする方法を理解することができる。</li> </ol>				
授業回数	【授業内容】			学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
1 ↓ 5	日常生活を遂行するための身体の機能のアセスメント コミュニケーションをとる（頭部、感覚器） 眠る（神経系、筋・骨格系） お風呂に入る（循環器系、神経系、筋・骨格系、皮膚） 子どもを生む（生殖器系、乳房 他）			講義・演習
6	生命の危機状態の原因追及と緊急度・重症度の判断			講義・演習
7	↓			
	学科終了試験			
【使用テキスト】 医学書院			【単位・成績の認定方法】	
主) 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 第4章 ヘルスアセスメント D④⑥⑦⑧⑨ 系統看護学講座 救急看護 第4章 救急患者の観察とアセスメント B 副) 日常生活行動からみるヘルスアセスメント（日本看護協会出版会）			筆記試験 レポート	
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
30時間		テキストの関連部分読む等、予習をして授業に臨む 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		
【実務経験と当該科目との関連】				
・実務経験がある保健師が担当				

**【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】**

分野等	専門・基礎看護学	配当学年・時期	1年次・前期	担当講師名
授業科目名	問題解決思考	単位数・時間数	1単位 30時間	専任教員
		授業回数	15回	
[概要]				
看護の「考え方」や「向き合い方」の基本をはじめとし、「実際に起きていること（情報）の関連性 の見出し方」「情報を解釈する方法」「知識の使い方」など看護の考え方の基盤となる問題解決過程 とその活用方法を学ぶ。				
[目標]				
1. 問題解決過程を理解することができる				
2. 問題解決に必要な力を適用することができる				
3. クリティカルシンキングの基本が理解できる				
4. リフレクションの基本が理解できる				
5. 臨床判断の基本的な考え方を理解できる				
6. 自ら学びを続ける態度を身に付けることができる				
授業回数	【授業内容】			学習形態（講義、G W、P P、DVD、等）
1	問題解決過程とは			講義
2	クリティカルシンキングとは			↓
3	クリティカルシンキングの実際			講義・演習
4	リフレクションとは			↓
5	リフレクションの実際			講義・演習・GW
6	↓			↓
7 ↓ 12	問題解決の実際 身近にある健康問題について、問題解決に必要な力を用いながら 健康問題の解決方法の提案を行うことができる			演習 プレゼンテーション
13 ↓ 14	臨床判断とは 患者のニーズ、気がかり、健康問題について解釈し、結論を出す 行為をおこなうか起こさないかの判断 標準的な方法を使うか変更するか 患者の反応から適切にその場で考え出して行う判断			講義・演習
15	レポート作成 この講義を受講してから気づいた看護学生としての自己の課題とその課題 解決のために実践していきたいこと			レポート プレゼンテーション
【使用テキスト】		医学書院	【単位・成績の認定方法】	
主)		系統看護学講座 基礎看護学②	レポート	50%
副)		リフレクションスキルトレーニング 他	演習・プレゼンテーション・GWの取り組み	50%
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
15時間		テキストの関連部分読む 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		
【実務経験と当該科目との関連】				
・臨床経験がある専任教員が担当				

**【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】**

分野等	専門・基礎看護学	配当学年・時期	1年次・後期	担当講師名
授業科目名	看護過程の展開	単位数・時間数	1 単位 30 時間	専任教員
		授業回数	14回 + 試験	
[概要]				
<p>問題解決のための系統的なアプローチと科学的手法をもとに看護を具体的に実践するための方法論としての看護過程の5段階（アセスメント、診断、看護計画立案、実践、評価）を演習しながら学ぶ。</p>				
[目標]				
<p>1. 看護過程の意義と基礎的理論が理解できる。                  2. 看護診断が理解できる。                  3. 事例の看護過程の展開ができる。</p>				
授業回数	【授業内容】			学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
1	1) 看護過程の意義と基礎的理論が理解できる 2) 看護過程の構成要素が理解できる			講義
2	アセスメントの基本の理解			講義
3	↓			講義・演習
4	全体像の把握（病態関連図・全体関連図）			↓
5	↓ （全体像の記述）			↓
6	看護問題の明確化（看護診断）			講義
7	↓			↓
8	事例の情報の整理			演習
9	事例のアセスメント			講義
10	↓			講義・演習
11	事例の関連図と看護診断			↓
12	↓			↓
13	事例の看護計画の立案			↓
14	実施、評価、看護記録の意義と種類の理解			講義
	学科終了試験			
【使用テキスト】 医学書院				【単位・成績の認定方法】
主) 系統看護学講座 基礎看護学技術 I				筆記試験 60点
副) 看護がみえる Vol. 4, Vol. 5 (メディックメディア)				課題提出 40点
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
15 時間		テキストの関連部分読む		
【実務経験と当該科目との関連】				
・ 臨床経験がある専任教員が担当				

**【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】**

分野等	専門・地域・在宅看護論	配当学年・時期	1年次・前期	担当講師名
授業科目名	地域・在宅看護概論	単位数・時間数	1単位 30時間	専任教員 外部講師
		授業回数	14回 + 試験	
[概要]				
地域とあらゆる人々が営む「暮らし」を理解することに重点をおき、「あらゆる人々」「あらゆる場所」で行われる看護の基盤となる概念を理解する。 学んだことを基に目的をもち、在宅看護論実習に臨めるようにする。				
[目標]				
1. 暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響を理解する。 2. 地域・在宅看護論の対象と看護の基盤となる概念を理解する。				
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
A	1	序章 地域のなかでの暮らしと健康・看護		講義 DVD 個人ワーク GW シミュレーション演習 地域探索
	2	第1章 人々の暮らしと地域・在宅看護		
	3	A 人々の暮らしの理解 B 地域・在宅看護の役割		
	4	第2章 暮らしの基盤としての地域の理解		
	5	A 暮らしと地域 B 暮らしと地域を理解するための考え方		
	6	C 地域包括ケアシステムと地域共生社会		
	7	第3章 地域・在宅看護の対象 A 地域・在宅看護の対象者 B 家族の理解 C 地域に暮らす対象者の理解と看護		
B	8	第4章 地域における暮らしを支える看護 A 暮らしを支える地域・在宅看護 B 暮らしの環境を整える看護 C 広がる看護の対象と提供方法 D 地域における家族への看護		講義 DVD 個人ワーク GW シミュレーション演習
	9	E 地域におけるライフステージに応じた看護		
	10	F 地域での暮らしにおけるリスクの理解 G 地域での暮らしにおける災害対策		
	11	第5章 地域・在宅看護実践の場と連携 A さまざまな場、さまざまな職種で支える地域での暮らし B おもな地域・在宅看護実践の場 C 地域・在宅看護における他職種連携		
	12	第6章 地域・在宅看護にかかわる制度とその活用		
	13	A 介護保険・医療保険制度 B 地域・在宅看護にかかわる医療提供体制 C 訪問看護の制度 D 地域保健にかかわる法制度 E 高齢者に関する法制度		
	14	F 障害者・難病に関する法制度 G 公費負担医療に関する法制度 H 権利保障に関連する制度		
			学科終了試験	
【使用テキスト】		【単位・成績の認定方法】		
専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1 医学書院		筆記試験 レポート（課題発表） 評価は単元A50%、単元B50% 総合評価として60点以上を合格とする		
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
15時間		前回の講義資料を復習する テキストの関連部分読む 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		
【実務経験と当該科目との関連】				
・臨床経験がある専任教員と実務経験がある訪問看護師が担当				

**【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】**

分野等	専門・地域・在宅看護論	配当学年・時期	2年次・前期	担当講師名
授業科目名	地域・在宅看護援助論Ⅰ	単位数・時間数	1単位 30時間	外部講師 2名
		授業回数	14回＋試験	
[概要] 地域で生活する人々とその家族の看護について理解し、暮らしを支える看護技術を学ぶ。				
[目標] 1. 「暮らしの場」で看護を行う前に抑えておくべき心構え、基本姿勢、マナー対象者やその家族との対話、コミュニケーションについて理解する。 2. 「暮らしの場」で看護を行うために必要な家族を支える援助について理解する。 3. 「暮らしの場」で看護を行うために必要な安全対策と事故防止の知識について理解する。 4. 生活環境を整え日常生活を支える地域・在宅看護技術について学ぶ。				
[概要] 地域で生活する人々とその家族の看護について理解し、暮らしを支える看護技術を学ぶ。				
[目標] 地域・在宅で治療を継続し、健康保持・合併症を予防するための地域・在宅看護技術について学ぶ。				
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
A	1	第2章 暮らしを支える看護技術		講義 DVD 個人ワーク GW シミュレーション演習
	2	A 暮らしの場で看護をするための心構え		
	3	B セルフケアを支える対話・コミュニケーション		
	4	C 地域・在宅看護における家族を支える看護		
	5	D 地域・在宅看護における安全をまもる看護		
	6	E 地域における暮らしを支える看護実践		
	7	1. 療養環境調整に関する地域・在宅看護技術 2. 活動・休息に関する地域・在宅看護技術 3. 食生活・嚥下に関する地域・在宅看護技術 4. 排泄に関する地域・在宅看護技術 5. 清潔・衣生活に関する地域・在宅看護技術		
B	8	第2章 暮らしを支える看護技術		講義 DVD 個人ワーク GW シミュレーション演習
	9	E 地域における暮らしを支える看護実践		
	10	6. 苦痛の緩和・安楽確保に関する地域・在宅看護技術		
	11	7. 呼吸・循環に関する地域・在宅看護技術		
	12	8. 創傷管理に関する地域・在宅看護技術		
	13	9. 与薬に関する地域・在宅看護技術		
	14	第4章 地域・在宅看護の事例展開 D 慢性閉塞性肺疾患（COPD）の療養者の事例展開 E 筋萎縮性側索硬化症（ALS）の療養者の事例展開 D・E COPD、ALS療養者の看護に必要とされる地域・在宅看護技術		
		学科終了試験		
【使用テキスト】		【単位・成績の認定方法】		
専門分野 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論2 医学書院		筆記試験 レポート シミュレーション演習 評価は単元A50%、単元B50% 総合評価として60点以上を合格とする		
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
15時間		前回の講義資料を復習する テキストの関連部分読む 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		
【実務経験と当該科目との関連】				
・実務経験がある保健師・看護師と訪問看護認定看護師が担当				

**【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】**

分野等	専門・地域・在宅看護論	配当学年・時期	2年次・後期	担当講師名
授業科目名	地域・在宅看護援助論Ⅱ	単位数・時間数	1 単位 30 時間	外部講師
		授業回数	14回 + 試験	
[概要] 地域で生活する人々とその家族の看護について理解し、地域・在宅における時期別、事例別の看護を学ぶ。				
[目標] 1. 外来受診、入院、退院、在宅療養、終末期までのさまざまな時期の地域・在宅看護を理解する。 2. 地域・在宅がロングタームであること、継続看護に必要性を理解する。 3. 事例を通し多様な療養者と家族の物語があり、それに応じた看護があることを理解する。 対象者や家族の物語に合わせ、暮らしや思い、人生の経過を理解し対象者や家族の価値観にそって看護を展開する方法を理解する。				
授業回数	【授業内容】			学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
1	第3章 地域・在宅における時期別の看護			講義 DVD 個人ワーク GW シミュレーション演習
2	A 健康な時期の看護	B 外来受診期における看護		
3	C 入院時の看護	D 在宅療養準備期（退院前）の看護		
4	E 在宅療養移行期の看護	F 在宅療養安定期の看護		
5	G 急性増悪期の看護	H 終末期の看護（グリーフケアを含む）		
6	第4章 地域・在宅看護の事例展開			
7	A 事例を学ぶにあたって			
8	B 医療的ケア児の事例展開			
9	C 脳卒中の療養者の事例展開			
10	D 慢性閉塞性肺疾患（COPD）の療養者の事例展開			
11	F パーキンソン病の療養者の事例展開			
12	G 統合失調症の療養者の事例展開			
13	H 認知症高齢者の事例展開			
14	I がん終末期の療養者の事例展開			
	学科終了試験			
【使用テキスト】		【単位・成績の認定方法】		
専門分野 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論2 医学書院		筆記試験 レポート シミュレーション演習 総合評価として60点以上を合格とする		
【自己学習時間】	【事前・事後学習】			
15 時間	前回の講義資料を復習する テキストの関連部分読む 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する			
【実務経験と当該科目との関連】				
・実務経験がある訪問看護師が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】

分野等	専門・地域・在宅看護論	配当学年・時期	2年次・前期	担当講師名
授業科目名	地域・在宅看護援助論Ⅲ	単位数・時間数	1 単位 30 時間	専任教員
		授業回数	14回 + 試験	
[概要]				
地域で生活する人々とその家族の看護について理解し、地域・在宅看護過程を展開する方法を学ぶ。				
[目標]				
1. 地域で生活する人々とその家族の看護の展開方法の基本を理解する。 地域包括ケアシステムの中で社会資源を活用し、多職種と協働する中での看護の展開を理解する。				
2. 地域・在宅看護マネジメント、ケアチームの中の看護の役割を理解し、多職種連携の必要性、多職種連携のあり方について考える。				
授業回数	【授業内容】			学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
1	序章 地域・在宅看護の実践			講義 DVD 個人ワーク GW シミュレーション演習
2	A 療養者と家族の思いから始まる看護			
3	B さまざまな人たちが力を合わせる看護			
3	C 長期的なかかわりが必要になる看護			
4	第1章 地域・在宅看護の展開			
5	A 地域・在宅看護における看護過程			
5	B 地域・在宅看護過程の展開方法			
6	第5章 地域共生社会における多職種連携・多職種チームでの協働			
7	A 地域・在宅看護における多職種連携・多職種チームでの協働			
7	B 医療・福祉・介護関係者との連携・協働			
8	C 医療・福祉・介護関係者以外との連携・協働			
8	D 地域共生社会を実現するために			
9	第6章 地域・在宅看護マネジメント			
10	A 地域・在宅看護マネジメントとは			
10	B 多様な場における地域・在宅看護マネジメント			
11	第7章 地域・在宅看護活動の創造と展開例			
12	A 地域・在宅看護活動の創造			
13	B 「暮らしの保健室」の例			
13	C さまざまな地域・在宅看護活動の展開例			
14	D 地域・在宅看護活動の創造のための考え方			
	学科終了試験			
【使用テキスト】		【単位・成績の認定方法】		
専門分野 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論2 医学書院		筆記試験 レポート シミュレーション演習 総合評価として60点以上を合格とする		
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
15 時間		前回の講義資料を復習する テキストの関連部分読む 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		
【実務経験と当該科目との関連】				
・臨床経験がある専任教員が担当				

**【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】**

分野等	専門・地域・在宅看護論	配当学年・時期	3年次・前期	担当講師名
授業科目名	地域・在宅看護援助論Ⅳ	単位数・時間数	1単位 20時間	専任教員
		授業回数	10回	
<p>[概要]</p> <p>地域で生活する人々とその家族の看護について理解し、事例を通し地域・在宅看護過程を展開する。</p> <p>[目標]</p> <p>地域・在宅看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだことをいかし在宅療養をしている事例を理解し地域・在宅看護過程を展開する。事例展開を通し、継続看護、地域・在宅看護マネジメント、多職種連携、チームケアのあり方について学ぶ。</p>				
授業回数	【授業内容】			学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
1	筋萎縮性側索硬化症（ALS）の療養者の事例を理解し、地域・在宅看護過程の展開を行う。  第1回から第6回にかけ地域・在宅看護過程をケアマネジメントの展開を行い、発表を通し学びを共有する。  第7回から第10回は前半で看護展開した事例のサービス担当者会議のロールプレイなどを通し、継続看護、多職種連携、チームケアの在り方について学びを共有する。			講義 DVD  シミュレーション演習  個人ワーク GW  レポート  発表  ロールプレイ
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
【使用テキスト】		【単位・成績の認定方法】		
専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論2 医学書院		課題取り組み姿勢 レポート課題達成状況		
【自己学習時間】	【事前・事後学習】			
25時間	知識の不足を補い学習し、地域・在宅看護過程・ケアマネジメントの展開を行う。 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する 課題に取り組む			
【実務経験と当該科目との関連】				
・臨床経験がある専任教員が担当				



【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】

分野等	専門・成人看護学	配当学年・時期	1年次・前期	担当講師名
授業科目名	成人看護学概論	単位数・時間数等	1単位 30時間	外部講師 専任教員
		授業回数	14回＋試験	
=単元A＝〔概要〕 成人各期の健康保持・増進や疾病予防について基本的な理解をする。 ①成人の特徴と生活について学ぶ。 ②成人における健康の保持・増進や疾病の予防について学ぶ。				
[目標] 1. 成人各期における発達段階とその特徴を理解できる。 2. 成人の生活を営むことの意義の理解から、大人の生活状況の特徴を統計から理解し、健康との関係について理解する。 3. 健康を守りはぐくむ保健・医療・福祉システムの概要と動向、連携について理解する。 4. 地域社会及び職場における大人のヘルスプロモーションを促進する看護について理解する。 5. 健康をおびやかす要因から、看護にとっての健康とは何か考えることができる。				
=単元B＝〔概要〕 成人の個々人の生活と健康に焦点を合わせ、その人らしくあることができるよう看護するための基本となる考え方や方法論を学ぶ。 急性期にある患者と家族の特徴、慢性疾患を持つ患者と家族の特徴、リハビリテーションの特徴、終末期にある患者と家族の特徴を理解し、看護を展開するための基本的な理解をする。				
[目標] 1. 成人の健康行動を理解し、促進するための看護アプローチについて理解できる。 2. 急激な健康破綻をきたした人の特徴とその看護について理解できる。 3. 慢性的な健康状態の特徴と病みの軌跡を理解し、セルフケアを支える看護を理解できる。 4. 障害がある人の障害の認識過程を理解し、障害をもちながら生活する人々を支援する看護の特徴を理解する。 5. 終末期医療に関する概念と人生の最期のときにある人の健康生活を理解し、看護の特徴を理解できる。				
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態 (講義、GW、P P、DVD、等)
A	1	成人と生活	1. 対象の理解 2. 対象の生活	第1章 講義
	2			講義
	3	生活と健康	生活と健康を守りはぐくむシステム	第2章 講義
	4			講義、協同学習
	5		ヘルスプロモーションと看護	第4章 講義
	6		健康をおびやかす要因と看護	第5章 講義
	7			講義
B	1	成人の看護アプローチの基本		第3章 講義
	2			講義
	3	健康生活の急激な破綻から回復を促す看護		第6章 講義、協同学習
	4	慢性病とともに生きる人を支える看護		第7章 講義、協同学習
	5	障害がある人の生活とリハビリテーション		第8章 講義
	6	人生の最期のときを支える看護		第9章 講義、事後レポート
	7	さまざまな健康レベルにある人の継続的な移行支援 新たな治療法 先端医療と看護		第10章 講義 第11章
学科終了試験				
【使用テキスト】		医学書院 系統看護学講座 成人看護学 [1] 成人看護学総論 《副読本》国民の衛生と動向		
【単位・成績の認定方法】		評価内訳： 単位の評価割合：単元A 50% 単元B 50% 筆記試験 90% 授業態度・グループ学習 10% 単元Aと単元Bの総合点60点以上を「認定」とする 以上、合計60%以上の場合「合格」とする		
【自己学習時間】	【事前・事後学習】	【実務経験と当該科目との関連】		
15時間	前回の講義資料を復習する テキストの関連部分読む 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する	実務経験がある保健師・看護師と 臨床経験がある専任教員が担当。		

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】

分野等	専門・成人看護学	配当学年・時期	2年次 前期	担当講師名		
授業科目名	成人看護学援助論 I	単位数・時間数等	1 単位 30 時間	外部講師 2名		
		授業回数	14回 + 試験			
=単元A= 【概要】 ～運動機能障害がある患者の看護～ 成人期にある障害がある人の特徴とその家族の特徴を理解し、各機能障害に応じたリハビリテーション看護について理解をする。 この単元では、運動器の解剖生理学の知識と疾患（病態）の知識を想起し、運動機能障害のある患者の看護を学ぶ。 【目標】 1. 運動器疾患に関する医療の動向を踏まえ、疾患をもつ患者の経過と看護を理解する。 2. 運動器疾患に伴って生じる様々な症状や検査を受ける患者の看護を理解できる。 3. 運動器疾患に対する保存療法を受ける患者の看護について理解できる。 4. 運動器疾患に対する手術療法を受ける患者の看護について理解できる。 5. 大腿骨頸部骨折・大腿骨転子部骨折患者の看護を理解できる。 6. 腰痛患者の看護を理解できる。 7. 大腿骨頸部骨折による人工骨頭置換術を受けた患者の看護を理解し、セルフマネジメントに向けての看護がわかる。						
=単元B= 【概要】 ～呼吸機能障害のある患者の看護～ 成人期にある慢性疾患をもつ人とその家族の特徴を理解し、各機能障害に応じたセルフマネジメントの看護について理解をする。 この単元では、呼吸器の解剖生理学の知識と疾患（病態）の知識を想起し、呼吸機能障害のある患者の看護を学ぶ。 【目標】 1. 呼吸器疾患に関する医療の動向を踏まえ、疾患をもつ患者の経過と看護を理解する。 2. 呼吸器疾患に伴って生じる様々な症状や検査を受ける患者の看護を理解できる。 3. 呼吸器疾患に対する治療・処置を受ける患者の看護について理解できる。 4. 呼吸器疾患をもつ患者の看護について理解できる。 5. 慢性閉塞性肺疾患の急性増悪により緊急入院した患者の看護を理解し、セルフマネジメントに向けての看護を展開できる。						
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態 (講義、GW、P P、DVD、等)		
A	1	医療の動向と看護、患者の特徴と看護の役割 疾患をもつ患者の経過と看護、援助のためのおもな知識と技		第1章 A、B 第6章 A、B	講義	
	2	症状に対する看護		第6章 C	講義	
	3	画像検査を受ける患者の看護		第6章 D-①、E	講義	
	4	保存療法を受ける患者の看護			演習	
	5	手術を受ける患者の看護		第6章 F	講義	
	6	大腿骨頸部骨折・大腿骨転子部骨折患者の看護 (リハビリテーション期)		講義・協同学習・個人ワーク		
	7	腰痛患者の看護 (脊椎損傷患者の看護)		第6章 G-②	講義	
B	1	医療の動向、患者の特徴と看護師の役割、 疾患をもつ患者の経過と看護		第1章 A、B、C 第6章 A	講義	
	2	症状に対する看護		第6章 B	講義	
	3	検査を受ける患者の看護		第6章 C	講義	
	4	治療・処置を受ける患者の看護		第6章 D		講義
	5					
	6	疾患をもつ患者の看護		第6章 E、第7章 A 別巻 第7章 D	講義 個人ワーク	
	7	*慢性閉塞性肺疾患の急性増悪により緊急入院した患者の看護		個人ワーク・協同学習		
学科終了試験						
【使用テキスト】 医学書院		系統看護学講座 成人看護学 [10] 運動器、成人看護学 [8] 呼吸器 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護				
【単位・成績の認定方法】		評価内訳： 単位の評価割合：単元A 50% 単元B 50% 単元Aと単元Bの総合点60点以上を「認定」とする				
		筆記試験 90% 授業態度・グループ学習 10% 以上、合計60%以上の場合「合格」とする				
【自己学習時間】	【事前・事後学習】	【実務経験と当該科目との関連】				
15時間	テキストの関連部分読む(予習) 前回の講義資料を復習する 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する	実務経験がある看護師2名が担当。				

**【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】**

分野等	専門・成人看護学	配当学年・時期	2年次・前期	担当講師名
授業科目名	成人看護学援助論Ⅱ	単位数・時間数等	1 単位 30 時間	専任教員 外部講師
		授業回数	14回 + 試験	
=単元A= 【概要】 ～循環機能障害のある患者の看護～ 成人の急激な健康破綻に陥った人の特徴とその家族の特徴を理解し、各機能障害に応じた看護について理解をする。 この単元では、循環器の解剖生理学の知識と疾患（病態）の知識を想起し、循環機能障害のある患者の看護を主に学ぶ。 【目標】 1. 循環器疾患患者に多くみられる症状を理解し、看護活動を理解する。 2. 検査を受ける患者の看護を理解する。 3. 治療を受ける患者の看護を理解する。 4. 疾患を持つ患者の看護を理解する。 5. 心臓リハビリテーションにおける看護を理解する。 6. 心不全患者の看護過程の展開を通し、看護を理解する。				
=単元B= 【概要】 ～消化・吸収機能障害、栄養・代謝機能障害のある患者の看護～ 成人期にある人が急激な健康破綻に陥った人の特徴とその家族の特徴を理解し、各機能障害に応じた看護について理解をする。 この単元では、消化器の解剖生理学の知識と疾患（病態）の知識を想起し、消化・吸収機能障害のある患者の看護、および栄養代謝機能障害のある患者の看護を主に学ぶ。 【目標】 1. 現在の消化器疾患に関する医療の動向を踏まえ、疾患をもつ患者の経過と看護を理解する。 2. 症状に対する看護を理解する。 3. 検査を受ける患者の看護を理解する。 4. 治療を受ける患者の看護を理解する。 5. 疾患を持つ患者の看護を理解する。 6. 肝硬変患者の看護を理解する。 7. ストーマケアを理解する。				
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態 (講義、GW、P P、DVD、等)
A	1	循環器の看護を学ぶにあたって 疾患をもつ患者の経過と看護症状に対する看護		第1章 A、B 講義 第6章 A、B
	2	心臓リハビリテーションと看護		第6章 F 講義
	3	検査を受ける患者の看護		第6章 C 講義
	4	治療を受ける患者の看護 手術を受ける患者の看護		講義
	5	弁置換術・弁形成術を受ける患者の看護 血栓除去術を受ける患者の看護		第6章 D 講義
	6	疾患をもつ患者の看護 <心不全患者事例提示>		第6章 E 講義
	7	心不全患者の看護……看護過程の展開を含む		第7章 C 講義、グループワーク
B	1	医療の動向と看護、患者の特徴と看護の役割 疾患をもつ患者の経過と看護		第1章 講義 第6章 A
	2	症状に対する看護		第6章 B 講義
	3	検査を受ける患者の看護		第6章 C 講義
	4	治療を受ける患者の看護		第6章 D 講義
	5	疾患をもつ患者の看護		第6章 E 講義
	6	肝臓・胆嚢疾患患者の看護		第6章 E、第7章 B 講義
	7	ストーマ造設術を受ける患者の看護 (大腸がん患者の看護・看護過程の展開《例》アセスメント➡計画立案)		特論 演習、 看護過程の展開 講義
		学科終了試験		
【使用テキスト】 医学書院 系統看護学講座 成人看護学 [3] 循環器、成人看護学 [5] 消化器				
【単位・成績の認定方法】				
単位の評価割合：単元A 50% 単元B 50%		単元A：筆記試験 80%、授業態度・グループ学習・看護過程の展開20%		
単元Aと単元Bの総合点60点以上を「認定」とする		単元B：筆記試験 90%、授業態度・グループ学習等 10%		
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		【実務経験と当該科目との関連】
15時間	テキストの関連部分読む(予習) 前回の講義資料を復習する 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		実務経験がある看護師と臨床経験がある専任教員が担当。	

## 【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】

分野等	専門・成人看護学	配当学年・時期	2年次・前期	担当講師名
授業科目名	成人看護学援助論Ⅲ	単位数・時間数等	1 単位 30 時間	外部講師 2名
		授業回数	14回 + 試験	
<p>=単元A= [概要] ～内部環境調節機能障害、排尿機能障害のある患者の看護～            成人期にある慢性疾患をもつ人とその家族の特徴を理解し、各機能障害に応じたセルフマネジメントの看護について理解をする。            この単元では、腎・泌尿器の解剖生理学の知識と疾患（病態）の知識を想起し、内部環境調節機能障害、排尿機能障害のある患者の看護を学ぶ。</p> <p>[目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>腎・泌尿器疾患に関する医療の動向を踏まえ、疾患をもつ患者の経過と看護を理解する。</li> <li>腎・泌尿器疾患に伴って生じる様々な症状や検査を受ける患者の看護を理解できる。</li> <li>内科的治療を受ける患者の看護について理解できる。</li> <li>泌尿器科的治療を受ける患者の看護について理解できる。</li> <li>糖尿病性腎症から透析導入に至った患者の看護を理解し、セルフマネジメントに向けての看護を理解し、看護過程の展開ができる。</li> </ol>				
<p>=単元B= [概要] ～内分泌機能障害、内部環境調節の患者の看護～            成人期にある慢性疾患をもつ人とその家族の特徴を理解し、各機能障害に応じたセルフマネジメントの看護について理解をする。            この単元では、内分泌・代謝の解剖生理学の知識と疾患（病態）の知識を想起し、内部環境調節機能障害（血糖）および内分泌機能障害のある患者の看護を学ぶ。</p> <p>[目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>内分泌・代謝に関する医療の動向を踏まえ、疾患をもつ患者の経過と看護を理解する。</li> <li>内分泌疾患患者の看護を理解できる。</li> <li>代謝疾患患者の看護を理解できる。</li> <li>2型糖尿病患者のセルフマネジメントに向けての看護を理解し、看護過程の展開ができる。</li> </ol>				
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態 (講義、GW、P P、DVD、等)
A	1	医療の動向と看護、患者の特徴と看護の役割 疾患をもつ患者の経過と看護		第1章 講義 第6章 I
	2	症状に対する看護		第6章 II 講義
	3	検査を受ける患者の看護		第6章 III 講義
	4	内科的治療を受ける患者の看護		第6章 IV～V 講義
	5	治療・処置を受ける患者の看護 疾患をもつ患者の看護		看護過程の展開 個人ワーク 講義
	6	泌尿器科的治療を受ける患者の看護		講義
	7	7. 糖尿病性腎症から透析導入に至った患者の看護※ ・・・看護過程の展開		第7章 A 個人ワーク 協同学習
B	1	医療の動向と看護、患者の特徴と看護の役割 疾患をもつ患者の経過と看護		第1章 講義 第6章 A
	2	内分泌疾患患者の看護		第6章 B 講義
	3	代謝疾患患者の看護		第6章 C 講義
	4	2型糖尿病患者の看護※		第7章 B 個人ワーク
	5	・・・看護過程の展開		個人ワーク・協同学習
	6	学科終了試験		
	7			
【使用テキスト】		医学書院 系統看護学講座 成人看護学 [8] 腎・泌尿器、[6] 内分泌・代謝		
【単位・成績の認定方法】		単元A：筆記試験 90%、授業態度・グループ学習 10%		
単位の評価割合：単元A 50% 単元B 50%				
単元Aと単元Bの総合点60点以上を「認定」とする		単元B：筆記試験 70%、授業態度・グループ学習 10%、看護過程の展開 20%		
【自己学習時間】	【事前・事後学習】	【実務経験と当該科目との関連】		
15時間	テキストの関連部分読む(予習) 前回の講義資料を復習する 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する	実務経験がある看護師2名が担当。		

## 【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】

分野等	専門・成人看護学	配当学年・時期	2年次・前期	担当講師名
授業科目名	成人看護学援助論Ⅳ	単位数・時間数等	1 単位 30 時間	外部講師 2名
		授業回数	14回 + 試験	
<p>=単元A = [概要] ～性・生殖・乳腺機能障害のある患者の看護～                      成人期にある人の急性期から終末期までの特徴とその家族の特徴を理解し、各機能障害に応じた看護について理解をする。                      この単元では、女性生殖器および男性生殖器の解剖生理学の知識と疾患（病態）の知識を想起し、性・生殖・乳腺機能障害のある患者の看護を学ぶ。</p> <p>[目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 女性生殖器疾患に関する医療の動向を踏まえ、疾患をもつ患者の経過と看護を理解する。</li> <li>2. 女性生殖器疾患に関する症状とその病態に対する看護を理解する。</li> <li>3. 外性器・内性器の手術を受ける患者の看護を経過に沿って理解する。</li> <li>4. 乳房の手術を受ける患者の看護を経過に沿って理解する。</li> <li>5. 外性器・内性器、乳房の手術を受ける患者の身体的・精神的・社会的側面を理解する。</li> <li>6. 女性生殖器がん患者の化学療法・放射線療法・ホルモン療法を受ける患者の看護を理解する。</li> <li>7. 男性生殖器での性・生殖器障害のある患者の看護を理解する。</li> </ol>				
<p>=単元B = [概要] ～身体防御機能障害のある患者の看護～                      成人の急激な健康破綻に陥った人の特徴とその家族の特徴を理解し、各機能障害に応じた看護について理解をする。                      この単元では、まず、血液・造血器の解剖生理学の知識と疾患（病態）の知識を想起し、身体防御機能の障害のある患者の看護を学ぶ。また、膠原病の病態と治療を想起し、身体防御機能の障害のある患者の看護を学ぶ。</p> <p>[目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 血液・造血器疾患に関する医療の動向を踏まえ、疾患をもつ患者の経過と看護を理解する。</li> <li>2. 血液・造血器疾患に関する主要症状を有する患者の看護を理解する。</li> <li>3. 血液・造血器疾患に関する検査を受ける患者の看護を理解する。</li> <li>4. 血液・造血器疾患に関するがん薬物療法、放射線療法と看護を理解する。</li> <li>5. 造血幹細胞移植を受ける患者の看護を理解する。</li> <li>6. 悪性リンパ腫患者の看護を理解する。</li> <li>7. 自己免疫疾患に関する医療の動向を踏まえ、症状に関する看護、薬物療法に関する患者の看護を理解する。</li> </ol>				
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態 (講義、GW、PP、DVD、等)
A	1	医療の動向と看護 患者の特徴 看護の役割 患者の看護		(1) 第1章 講義 第6章 A、C
	2	症状とその病態に対する看護		(1) 第6章 D 講義
	3	外陰部・膣・子宮・卵管・卵巣疾患患者の看護		(1) 第6章 E～I 講義
	4			別巻 第4、5章の一部を含む 協同学習
	5	乳房疾患患者の看護・・・看護過程の展開		(1) 第7章 B 講義
	6			個人ワーク
	7	男性生殖器における性・生殖機能障害のある患者の看護		(2) 第6章 E 講義 別巻 第4章、第5章
B	1	【血液・造血器疾患患者の看護】 医療の動向、患者の特徴と看護の役割 疾患をもつ患者の経過と看護 主要症状を有する患者の看護		(3) 第1章 A、B 講義 第6章 A、B
	2	検査を受ける患者の看護 造血器腫瘍患者の看護		(3) 第6章 C、D 講義
	3			別巻 第5章 C、E
	4	造血器腫瘍患者に共通する看護 急性骨髄性白血病患者の看護		(3) 第6章 E-①② 講義
	5	悪性リンパ腫患者の看護		(3) 第6章 E-⑤ 講義
	6	【膠原病患者の看護】医療の動向と看護		(4) 第1章 A、B 講義
	7	症状に対する看護 検査を受ける患者の看護 薬物療法を受ける患者の看護		(4) 第6章 B、C、D、E-② 講義
学科終了試験				
【使用テキスト】		(1) 成人看護学 [9] 女性生殖器 (2) 成人看護学 [8] 腎・泌尿器		
医学書院 系統看護学講座		(3) 成人看護学 [4] 血液・造血 (4) 成人看護学 [11] アレルギー 膠原病 感染症 《副読本》 医学書院 系統看護学講座 別巻 がん看護学		
【単位・成績の認定方法】		評価内訳： 筆記試験 90% 授業態度・グループ学習 10%		
単位の評価割合：単元A 50% 単元B 50%		単元Aと単元Bの総合点60点以上を「認定」とする 以上、合計60%以上の場合「合格」とする		
【自己学習時間】	【事前・事後学習】	【実務経験と当該科目との関連】		
15時間	テキストの関連部分読む(予習) 前回の講義資料を復習する 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する	実務経験がある看護師2名が担当。		

## 【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】

分野等	専門・老年看護学	配当学年・時期	1年次・後期	担当講師名
授業科目名	老年看護学概論	単位数・時間数	1単位 30時間	外部講師
		授業回数	14回 + 試験	
<p>[概要]                      老年期における変化（身体面、心理面、社会面）の特徴を知り、その対象をとりまく医療福祉の概要を踏まえて老年期のライフサイクルを学ぶ。老年期にある人々の健康と病や障害を捉え、看護を考える基盤とする。</p> <p>[目標]                      1. 高齢者の身体・心理・社会的変化を理解し、看護アセスメントへつなげることができる。                      2. 老年期の捉え方及び援助について、基礎となる理論が分かる。                      3. 高齢者を取り巻く社会背景および、保健・医療・福祉の理解ができる。</p>				
授業回数	【授業内容】			学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老年看護学の構造と成り立ち、看護師に求められる役割</li> <li>・「老いる」ということ、「古い」のイメージ</li> </ul>			講義 詩歌鑑賞
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老いを生きるということ、ライフサイクル</li> <li>・老年看護に役立つ理論・概念</li> <li>・高齢者の性、社会参加</li> </ul>			講義 グループワーク
3・4	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 高齢者疑似体験（片麻痺、視聴覚障がい、おむつ装着）</li> <li>* ある高齢者のドキュメンタリー「幸せな時間」視聴</li> </ul>			演習、DVD視聴 レポート作成
5	* 自己の高齢者援助の振り返り、学びの共有			グループワーク 発表
6	・加齢による身体機能の変化とアセスメント(1)			講義
7	・加齢による身体機能の変化とアセスメント(2)			講義
8	・高齢者によくみられる身体症状とアセスメント			講義
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者のメンタルアセスメントと認知症</li> <li>動画視聴「認知症の心に寄り添うバリデーション」</li> </ul>			講義 動画視聴、課題作成
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知機能障害のある高齢者の看護</li> <li>・パーソンセンタードケア（認知症ケアの理念と実践）</li> </ul>			講義 DVD視聴
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・超高齢社会の統計的輪郭</li> <li>・保健医療福祉の動向</li> </ul>			講義
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者を支える保健医療福祉の制度（介護保険制度、地域包括ケアなど）</li> </ul>			講義
13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の権利擁護（高齢者虐待、エイジズムなど）</li> <li>・エンドオブライフケア</li> </ul>			講義、グループワーク レポート作成
14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者とヘルスプロモーション</li> <li>・リロケーション、高齢者を含む家族の看護</li> </ul>			講義
	学科終了試験			
【使用テキスト】			【単位・成績の認定方法】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学、老年看護 病態・疾患論 医学書院</li> <li>・副) 国民衛生の動向、その他に配布するパンフレットなど</li> </ul>			レポート(課題) 20% 記述試験 80%	
【自己学習時間】	【事前・事後学習】		【実務経験と当該科目との関連】	
15時間	前回の講義資料を復習する テキストの関連部分読む 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		・実務経験がある看護師・保健師が担当	

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】

分野等	専門・老年看護学	配当学年・時期	2年次・前期	担当講師名
授業科目名	老年看護学援助論Ⅰ	単位数・時間数	1 単位 30 時間	外部講師 2名
		授業回数	14回 + 試験	
[概要]				
<p>加齢変化、病、障害を合わせ持つ身心をどのようにとらえ、それに基づいてどのように生活を整えるか、基礎的な学びを得る。</p> <p>基本動作（立つ、座る）と生活行為（食事、排泄、清潔）、生活リズム、コミュニケーションについて、高齢者特有の不具合と援助技術について学ぶ。</p> <p>=単元A= [目標]</p> <p>1. 高齢者特有のリスクを理解しアセスメントする視点を持つことができる。</p> <p>2. 高齢者の生活を整えるために必要な援助方法が分かる。</p> <p>=単元B= [目標]</p> <p>1. 高齢者に多い疾患の病態生理を理解し、看護の要点が分かる。</p>				
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
A	1	老年看護学 第5章	高齢者の生活機能を整える看護	講義（協同学習）
	2		・生活の基本となる動作（ADL、IADL）	↓
	3		・歩行・移動・姿勢保持、転倒、廃用症候群	↓
	4		・食事、排泄、清潔（入浴行動に伴う危険）	↓
	5		・生活リズム（活動と休息）、コミュニケーション	↓
	6		・セクシュアリティ、社会参加	↓
	7		・寛ぎ、安心、安全	↓
B	8	老年看護学 第6章	健康逸脱からの回復を促す看護	講義（協同学習）
	9		・脱水症、廃用症候群	↓
	10		・脳・神経系疾患（脳卒中、パーキンソン病）	↓
	11		・心不全、糖尿病	↓
	12		・呼吸器疾患（COPD、肺炎）	↓
	13		・骨折（骨粗しょう症、脊椎圧迫骨折、大腿骨近位部骨折）	↓
	14		・認知機能障害（うつ、せん妄、認知症）	↓
		学科終了試験		
【使用テキスト】			【単位・成績の認定方法】	
・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院			単位の評価割合：単元A 50% 単元B 50% 単元Aと単元Bの総合点60点以上を「認定」とする 評価内訳： 筆記試験 90% + 授業態度・グループ学習等 10% 以上、合計60%以上の評価を「合格」とする	
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
15 時間		前回の講義資料を復習する テキストの関連部分読む 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		
【実務経験と当該科目との関連】				
・実務経験がある看護師が担当				

**【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】**

分野等	専門・老年看護学	配当学年・時期	2年次・前期	担当講師名
授業科目名	老年看護学援助論Ⅱ	単位数・時間数	1 単位 30 時間	専任教員 外部講師
		授業回数	14回 + 試験	
= 単元 A = 【概要】 健康状態や受療状況に応じた看護について学び、多職種との連携を考えることができる。 高齢者のリスクマネジメントについて学び、高齢者の安全を守る視点を考えることができる。 【目標】 1. 高齢者が検査や治療（薬物療法・手術療法）を受ける際に起こりやすい有害事象の予防や必要な配慮が分かる。 2. 高齢者のリハビリテーションと退院支援の要点が分かる。				
= 単元 B = 【概要】 老年期にある対象の健康問題を捉え、健康の状態に応じた看護を思考する。 紙上事例から看護過程が展開できる能力を養う。 【目標】 1. 高齢者における健康段階の特徴と必要な看護について理解できる。 2. 対象の身体的・精神的・社会的側面を考え、老年期の特徴を捉えた看護問題・看護計画を考えることができる。				
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
A	1	老年看護学	第7章 治療を必要とする高齢者の看護 ・検査・薬物療法・手術 ・リハビリテーション（福祉用具、介護用品の活用） ・入院に伴う環境の変化、退院調整 ・長期入院・入所高齢者の看護	講義
	2			↓
	3			↓
	4			↓
	5	10章	高齢者のリスクマネジメント ・高齢者と医療事故、高齢者特有のリスク要因	個人ワーク グループワーク
B	1	失語症 失語症の種類・症状		講義、視聴覚教材
	2	脳血管疾患 発症前(生活習慣、加齢変化) ⇒危険因子とその予防		講義 グループワーク
	3	脳血管疾患 発症～急性期 ⇒急性期の高齢者の特徴、手術を受ける高齢者の特徴		↓
	4	脳血管疾患 回復期 ⇒回復期の高齢者の特徴、生活機能の維持向上		↓
	5	看護過程の展開：脳梗塞患者の事例(回復期)提示、情報収集 ⇒アセスメントを次回講義までに実施		事例提示 個人ワーク
	6	アセスメント発表、解説		グループワーク 講義
	7	看護計画立案、関連図作成		個人ワーク
	8	立案した看護計画の発表、解説 ⇒アセスメント・看護計画・関連図提出		グループワーク 講義
	9	脳血管疾患 退院～在宅 ⇒多職種連携、家族指導、自己管理など		講義
学科終了試験				
【使用テキスト】 医学書院			【単位・成績の認定方法】	
・専門 老年看護学 ・専門 老年看護 病態・疾患論 ・専門 成人看護学 [7] 脳・神経 (副読本) ・別巻 リハビリテーション ・看護専門基礎 解剖生理学・病態生理学			単位の評価割合：単元 A 40% 単元 B 60% 単元 A と単元 B の総合点60点以上を「認定」とする  評価内訳： A：筆記試験 90% 授業態度・グループ学習等 10% B：筆記試験 80% 授業態度・グループ学習等 20%	
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
15 時間		前回の講義資料を復習する テキストの関連部分読む 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		
【実務経験と当該科目との関連】				
・臨床経験がある専任教員と実務経験がある看護師が担当				



**【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】**

分野等	専門・小児看護学	配当学年・時期	1年次・後期	担当講師名
授業科目名	小児看護学概論	単位数・時間数等	1単位 30時間	専任教員 外部講師
		授業回数	14回 + 試験	
<p><b>【概要】</b>          小児期が人間形成の基礎として重要な時期であることを前提として子どもの成長・発達と健康増進、子どもの成長・発達に重要な影響力を持つ家族の役割、子どもの最善の利益を考えた地域ぐるみのヘルスプロモーションやセイフティプロモーションについて学ぶ。</p> <p>= 単元A = 小児の発達段階に応じた看護          子どものライフスタイルや健康は、子どもを取り巻く環境と家族、地域のあり方に強く規定され、その中で日常生活行動を獲得し、健康管理行動を発達させる。</p> <p><b>【目標】</b>          子どもを取り巻く社会の中で、小児看護の対象と小児看護の役割・機能を理解する。          子どもの発達段階に応じた日常生活の特徴を踏まえ、健全な成長発達、健康増進に向けた看護を理解する。</p> <p>= 単元B = <b>【目標】</b>          子どもを取り巻く社会の中で、小児看護の対象と小児看護の役割・機能を理解する。</p>				
単元	授業回数	<b>【授業内容】</b>		学習形態（講義、GW、P P、DVD、等）
A	1	小児看護の目指すところ		講義
	2	新生児・乳児		演習 「成長・発達カレンダー」 A3 ↓
	3	幼児		
	4	学童		
	5	思春期・青年期		↓ 3種類作成
	6	小児各期の成長発達 基本的な生活習慣の獲得プロセス		↓ 各講義に作成時間作る
	7	小児各期の成長発達 基本的な生活習慣の獲得プロセス		GW
	8	乳児に養育および看護、日常生活の世話 1, 乳児の抱き方（哺乳児を含む） 2, オムツ交換 3, 衣服の着脱のしかた		発表
	9	障害のある子どもと家族の看護		校内実習
B	1	小児看護の理念・特徴・目的		講義
	2	子どもの成長・発達		演習
	3	家族の特徴とアセスメント		講義
	4	子どもと家族を取り巻く社会 児童福祉、母子保健、医療費の支援		↓
	5	子どもと家族を取り巻く社会 予防接種、学校保健 食育 特別支援教育 臓器移植		↓
		学科終了試験		
<b>【使用テキスト】</b> 医学書院			<b>【単位・成績の認定方法】</b>	
系統看護学講座 専門Ⅱ小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学概論 第1章～7章 小児臨床看護総論 第7章、第8章①～④ 小児看護学 第8版子どもと家族の示す行動への判断とケア			筆記試験 単元A 60%、単元B 40% 総合評価として60点以上を合格とする *「成長発達カレンダー」は単元Aの評価に含む	
<b>【自己学習時間】</b>	<b>【事前・事後学習】</b>		<b>【実務経験と当該科目との関連】</b>	
15時間	前回の講義資料を復習する テキストの関連部分読む 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		・臨床経験がある専任教員と実務経験がある保健師・看護師が担当	

## 【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】

分野等	専門・小児看護学	配当学年・時期	2年次・後期	担当講師名
授業科目名	小児看護学援助論Ⅰ	単位数・時間数等	1 単位 30 時間	外部講師 2名
		授業回数	14回 + 試験	
<p>＝單元A＝ [概要] 小児の健康状態に応じた看護                      小児期は身体的・精神的にも未熟であることから健康上の問題を引き起こしやすい。また医療技術の進歩は多くの子どもの命を救うこととなったが一方で子どもの病気は重症化し入院生活を余技なくされることもある。こうした状況の中で21世紀を担う子どもたちが最善の利益を守られ、健やかに成長・発達することができるようにさまざまな健康状態に応じた援助について学ぶ。</p> <p>[目標]                      小児期にみられる健康問題の特徴を踏まえ、さまざまな健康状態に応じた子どもと、その家族に必要な看護を理解する。</p>				
<p>＝單元B＝ [概要] 小児の疾患に応じた看護                      小児期は身体的・精神的にも未熟であることから健康上の問題を引き起こしやすい。また医療技術の進歩は多くの子どもの命を救うこととなったが一方で子どもの病気は重症化し入院生活を余技なくされることもある。こうした状況の中で21世紀を担う子どもたちが最善の利益を守られ、健やかに成長・発達することができるようにさまざまな疾患に応じた看護について学ぶ。</p> <p>[目標]                      小児期の疾患を踏まえ、さまざまな疾患に応じた子どもと、その家族に必要な看護を理解する。</p>				
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
A	1	入院中の子どもと家族の看護		講義 演習
	2	外来における子どもと家族の看護		↓
	3	在宅療養中の子どもと家族の看護		↓
	4	急性にある子どもと家族の看護		↓
	5	慢性期にある子どもと家族の看護		↓
	6	終末期にある子どもと家族の看護		↓
	7	災害時の子どもと家族の看護 虐待を受けている子どもに求められるケア		↓
B	1	染色体異常・体内環境により発症する先天異常 新生児の疾患をもった子どもの看護		講義
	2	代謝性疾患、内分泌疾患、免疫疾患・アレルギー疾患・ リウマチ性疾患をもった子どもの看護		↓
	3	感染症・呼吸器疾患をもった子どもの看護		↓
	4	循環器疾患、消化器疾患をもった子どもの看護		↓
	5	血液・造血器疾患、悪性新生物の疾患をもった子どもの看護		↓
	6	腎・泌尿器および生殖器疾患、神経疾患、 運動器疾患をもった子どもの看護		↓
	7	皮膚疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患、精神疾患、 事故・外傷などの看護		↓
		学科終了試験		
【使用テキスト】				
系統看護学講座 専門 小児看護学概論 小児臨床看護総論 第2章、第3章、第8章⑤ " 小児臨床看護各論 第1章～第18章 A C 第19章 (医学書院) 小児看護学 第8版 子どもと家族の示す行動への判断とケア (日創研) 国民衛生の動向 他				
【単位・成績の認定方法】				
単元A 50%、単元B 50% 総合評価として60点以上を合格とする 単元A：筆記試験 演習評価 単元B：筆記試験				
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		【実務経験と当該科目との関連】
15時間		前回の講義資料を復習する テキストの関連部分読む 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		・実務経験がある看護師2名が担当

**【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】**

分野等	専門・小児看護学	配当学年・時期	3年次・前期	担当講師名
授業科目名	小児看護学援助論Ⅱ	単位数・時間数等	1単位 30時間	専任教員
		授業回数	14回＋試験	
<p><b>【概要】</b> 治療を受ける小児の看護 健康問題、障害をもつ子どもと家族の共通する問題のとらえ方、看護援助に役立つ理論と実践方法を講義と事例を通じて理解する。 また検査、処置、手術、隔離、活動制限、救急などのさまざまな状況に応じた看護の方法を学ぶとともに、小児特有の技術について校内実習による実践を通して習得する。</p> <p><b>【目標】</b> 子どもとその家族の看護上の問題を解決するための方法を理解するとともに、検査、治療、処置を必要とする子どもの看護技術を習得する。</p>				
授業回数	【授業内容】			学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
1	病気・障害をもつ子どもと家族の看護 病気・障害が子どもに与える影響			講義
2	病気・障害をもつ子どもと家族の看護 子どもの健康問題と看護			
3	子どものアセスメント アセスメントに必要な技術			
4	子どものアセスメント 身体的アセスメント			
5	検査処置を受ける子どもの看護 検査・処置総論 薬物動態と薬量決定			講義 演習
6	与薬 輸液管理 抑制 検体採取 電法 清潔			
7	検査処置を受ける子どもの看護 経管栄養法 呼吸症状の緩和 救急処置			
8	校内実習 1)バイタルサイン測定 2)経口投与 3)吸引			demonstration 校内実習
9	4)身体測定（身長・体重・頭囲・胸囲）			
10	症状を示す子どもの看護			↓
11				
12	7,子どもの特徴をふまえた事例展開			講義 演習 事例提示 事例展開
13	1)小児看護過程の特徴			
14	(1)成長・発達の視点 (2)家族の視点 (3)健康状態			
	学科終了試験			
<b>【使用テキスト】</b>				
系統看護学講座 専門 小児看護学概論 小児臨床看護総論 第1章、第4章、第5章、第6章 " 小児看護臨床看護各論 付章 事例による看護過程の展開 (医学書院) 小児看護学 第8版 子どもと家族の示す行動への判断とケア (日創研) 他				
<b>【単位・成績の認定方法】</b>				
筆記試験 60% 事例展開 30%				
<b>【自己学習時間】</b>		<b>【事前・事後学習】</b>		
15時間		前回の講義資料を復習する テキストの関連部分読む 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		
<b>【実務経験と当該科目との関連】</b>				
・臨床経験がある専任教員が担当				

**【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】**

分野等	専門・母性看護学	配当学年・時期	2年次・前期	担当講師名
授業科目名	母性看護学概論	単位数・時間数	1 単位 20 時間	専任教員
		授業回数	9回 + 試験	
[概要]				
<p>母性看護の役割拡大をふまえ母性看護の基盤となる概念を理解し、女性の一生を通じた母性の健康保持・増進および次世代の健全育成を目指す看護について学ぶ。</p> <p>母性看護学の入り口となる科目であるため、興味を持てるような組み立てを目指す。</p> <p>母性準備期間である学生の母性・父性を育てる場となり、今後の看護にも自分の生活にも活かせる学習内容としていく。</p>				
[目標]				
<ol style="list-style-type: none"> <li>母性を取り巻く社会状況の変化を知り、現代社会における母性の概念が理解することができる。</li> <li>母性看護の変遷・動向を理解し、母性看護の対象および役割が理解することができる。</li> <li>女性のライフステージ各期における健康問題と看護を理解することができる。</li> <li>リプロダクティブヘルス/ライツについて理解し、ヘルスケアの課題について考えることができる。また、対象者及び家族の意思決定を支援することの重要性を理解することができる。</li> <li>母性看護学概論で学んだことから命について考え、自分の思いを述べることができる。</li> </ol>				
授業回数	【授業内容】			学習形態（講義、GW、P P、DVD、等）
1	母性看護の基盤となる概念 母性とは リプロダクティブヘルス/ライツ			講義
2	母性看護の基盤となる概念 母性看護のあり方 母性看護における倫理			講義
3	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状			講義 GW
4	母性看護の対象理解 母性看護に使われる看護技術			講義 GW
5	母性看護の提供システム 母性の在宅看護 地域に密着した助産院の関り			講義 GW
6	ライフステージ各期の看護 リプロダクティブヘルス/ケア			講義 GW
7	ライフステージ各期の特徴			GW
8	ライフステージ各期の健康問題と看護			GW
9	いのちについて考える			講義
	学科終了試験			
【使用テキスト】			【単位・成績の認定方法】	
系統 専門 母性看護学概論 母性看護学〔1〕 医学書院 国民衛生の動向			・学科終了試験80% ・レポート「いのちについて考える」20% 合わせて60点以上を合格とする	
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
25 時間		前回の講義資料を復習する テキストの関連部分読む 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		
【実務経験と当該科目との関連】				
・臨床経験がある専任教員が担当				

**【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】**

分野等	専門・母性看護学	配当学年・時期	2年次・前期	担当講師名
授業科目名	母性看護学援助論Ⅰ	単位数・時間数	1単位 30時間	外部講師 4名
		授業回数	14回＋試験	
＝单元A＝ 【概要】 周産期における母子とその家族への、看護実践に必要な基礎的知識を学ぶ。 【目標】 1. 妊娠・分娩・産褥各期の生理および看護を理解することができる。 2. 妊娠・分娩・産褥各期の健康問題と看護を理解することができる。 3. 新生児の生理、子宮外生活への適応への援助を理解することができる。				
＝单元B＝ 【概要】 周産期における母子とその家族への、看護実践に必要な基礎的知識を学ぶ。 【目標】 1. 妊娠・分娩・産褥各期の生理および看護を理解することができる。 2. 妊娠・分娩・産褥各期の健康問題と看護を理解することができる。 3. 新生児の生理、子宮外生活への適応への援助を理解することができる。				
单元	授業回数	【授業内容】		学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
A	1	正常な妊娠経過 妊産婦の異常		講義 産婦人科医師
	2	正常な分娩経過		↓
	3	分娩期の異常		↓
	4	正常な産褥の経過・産褥期の異常		↓
	5	正常な新生児の経過		↓ 新生児科医師
	6	新生児期の異常		↓
B	7	妊娠期の看護		講義 GW 助産師
	8	ハイリスク妊婦の看護		講義
	9	分娩期の看護		↓
	10	分娩期に異常がある産婦の看護		↓
	11	産褥期の看護		講義 GW 助産師
	12	母子関係確立・母乳哺育確立への看護		↓
	13	産褥期に異常がある褥婦の看護		講義
	14	新生児の看護・異常がある新生児の看護		↓
学科終了試験				
【使用テキスト】			【単位・成績の認定方法】	
系統 専門 母性看護学各論 母性看護学〔2〕 医学書院 病気がみえるvol.10 クイックメディア			学科終了試験100% 单元A 40% 单元B 60% 総合評価として60点以上を合格とする	
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
15時間		前回の講義資料を復習する テキストの関連部分読む 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		
【実務経験と当該科目との関連】				
・実務経験がある婦人科医師、小児科医師、助産師2名が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】

分野等	専門・母性看護学	配当学年・時期	2年次・後期	担当講師名
授業科目名	母性看護学援助論Ⅱ	単位数・時間数	1単位 30時間	専任教員
		授業回数	14回＋試験	
[概要]				
<p>周産期における母子の特徴を理解し、ウェルネス志向で看護過程の展開を行う。          周産期における母子とその家族への看護のイメージを膨らませるためにロールプレイングを取り入れて学習する。          また、アセスメント能力・看護実践能力・情意領域を高めるため、保健指導の実施を体験する。          本来備わっている力を引き出し、より良い健康状態を促進するための看護について学ぶ。</p>				
[目標]				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠・分娩・産褥各期における心理・社会的特徴を理解することができる。</li> <li>2. 妊娠・分娩・産褥各期および新生児のアセスメントをし必要な看護を考えることができる。</li> <li>3. 妊娠・分娩・産褥各期および新生児まで、つながっていることが理解することができる。</li> <li>4. ウェルネス志向で看護過程を展開することができる。</li> <li>5. 対象に必要な退院指導を考え、模擬褥婦に実施することができる。</li> </ol>				
授業回数	【授業内容】			学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
1	母性看護学における看護過程 ウェルネス志向とは			講義 GW
2	妊娠・分娩・産褥各期および新生児のつながり			↓
3	妊娠期のアセスメント			↓
4	↓	妊娠期の保健指導		シミュレーション演習
5	分娩期のアセスメント			講義 GW
6	分娩第1期の看護を考える	ロールプレイング		シミュレーション演習
7	↓			↓
8	看護過程の演習	産褥期		講義 GW
9	↓	ロールプレイング		シミュレーション演習
10	↓			講義 GW
11	看護過程の演習	新生児		講義 GW
12	↓			↓
13	産褥期の看護	退院指導を考える		シミュレーション演習
14	↓	発表		↓
	学科終了試験			
【使用テキスト】				【単位・成績の認定方法】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統 専門 母性看護学各論 母性看護学〔2〕 医学書院</li> <li>・母性看護技術 メヂカルフレンド社</li> <li>・病気がみえるvol.10 クイックメディア</li> </ul>				学科終了試験80% 課題提出20%
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
15時間		<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の講義資料を復習する</li> <li>・テキストの関連部分読む</li> <li>・課題が提示された場合は、事前に調べて参加する</li> </ul>		
【実務経験と当該科目との関連】				
・臨床経験がある専任教員が担当				

**【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】**

分野等	専門・母性看護学	配当学年・時期	3年次・前期	担当講師名
授業科目名	母性看護学援助論Ⅲ	単位数・時間数	1単位 15時間	外部講師 専任教員
		授業回数	7回 + 試験	
<p><b>[概要]</b>                  周産期の母子とその家族を対象とした看護技術の演習を行う。                  母性看護学の基礎知識として求められる、空間的な認知について学んでいく。                  演習を通し命を育むことの意味を考え、対象を尊重した関りを学ぶ。</p> <p><b>[目標]</b>                  1. 正常な経過をたどる母子に対し適切な看護を行うための知識・技術を理解することができる。                  2. 対象を尊重した態度で、援助を実施することができる。</p>				
授業回数	【授業内容】			学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
1	妊婦体験			講義 GW 専任教員
2	妊娠期に必要な看護技術			講義 演習 外部講師
3	↓ (腹囲・子宮底測定・レオポルド触診法・児心音聴取)			演習 ↓
4	産褥期に必要な看護技術			講義 演習 ↓
5	↓ (子宮底の触知法・母親役割獲得・母乳哺育の確立へ向けた援助)			演習 ↓
6	新生児に必要な看護技術			講義 演習 専任教員
7	↓ (観察・抱っこ・おむつ交換・清拭・沐浴)			演習 ↓
	学科終了試験			
【使用テキスト】			【単位・成績の認定方法】	
系統 専門 母性看護学各論 母性看護学〔2〕 医学書院 母性看護技術 メヂカルフレンド社			学科終了試験80% 演習への取り組み20% 合わせて60点以上を合格とする	
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
30 時間		前回の講義資料を復習する テキストの関連部分読む 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		
【実務経験と当該科目との関連】				
・実務経験がある助産師、臨床経験がある専任教員が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】

分野等	専門・精神看護学	配当学年・時期	2年次・前期	担当講師名
授業科目名	精神看護学概論	単位数・時間数等	1 単位 30 時間	専任教員 外部講師
		授業回数	14回 + 試験	
[概要]				
<p>精神的健康の保持増進及び精神疾患の予防に関する因子を理解し、心の働きとメカニズムを知り、行動に示される心の表われを理解する。</p> <p>精神に障害のある方の人権や福祉、地域での生活のあり方などについて家族支援を含めて理解を含める。</p> <p>欧米、日本の精神医療の歴史について概観し、特色を理解するとともに法の変遷、法の改正に伴う対象の処遇について理解を深める。</p> <p>ストレスマネジメントと精神科における看護師の役割を理解する。</p>				
[目標]				
<p>1. 乳幼児から高齢者までの生涯にわたる心の発達過程を理解するための諸理論が説明できる。</p> <p>2. 精神保健看護の理念、現在における社会現象や社会問題を精神看護の視点から理解できる。</p> <p>3. 心の健康、ストレス、危機のメカニズムをもとにセルフマネジメントについて理解できる。</p> <p>4. 精神疾患とその治療の歴史的な流れを理解し、社会学の視点から精神障害を考察できる。</p>				
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態 (講義)
A	1	第1章 精神看護学で学ぶこと		講義
	2	第2章 精神保健の考え方 ・精神の健康とは		↓
	3	・心身の健康に及ぼすストレスの影響 ・精神障害というとらえ方		↓
	4	第3章 心のはたらきと人格形成 ・心のはたらき		↓
	5	・心のしくみと人格の発達		↓
	6	第4章 関係の中の人間 ・システムとしての人間関係 ・全体としての家族		↓
	7	まとめ		↓
B	1	第5章 精神科疾患のあらわれ方		講義
	2	・精神を病むことと生きること他		↓
	3	第6章 精神科での治療 ・精神科における治療／精神療法 薬物療法 電気けいれん療法他 ・環境療法、社会療法		↓
	4	第7章 社会の中の精神障害 ・精神障害と治療の歴史 ・日本における精神医学、精神医療の流れ		↓
	5	・精神障害と文化、社会学		↓
	6	・精神障害と法制度 ・おもな精神保健医療福祉対策とその動向		↓
	7	まとめ		
		学科終了試験		
【使用テキスト】		医学書院	【単位・成績の認定方法】	
系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 精神看護学①			単元A 50% + 単元B 50%の総合評価として60%以上を合格 評価方法: 単元ごとに学科終了試験を行う	
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
15 時間		前回の講義資料を復習する		
【実務経験と当該科目との関連】				
・臨床経験がある専任教員と実務経験がある看護師が担当				



**【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】**

分野等	専門・精神看護学	配当学年・時期	2年次・後期	担当講師名
授業科目名	精神看護学援助論Ⅰ	単位数・時間数等	1 単位 30 時間	外部講師 2名
		授業回数	14回 + 試験	
<p><b>[概要]</b>                  精神障がい者の病態と徴候、症状、経過、治療等を学び、健康上の問題と生活上の問題に直面している人とその家族の思いや考えを尊重した援助方法を学び実践へつなげていく。                  精神科における看護の特徴と意義を理解し、援助者自身が治療的環境の一部であることを理解するとともに自分自身の傾向を知る。</p> <p><b>[目標]</b>                  1. 精神看護における看護師の役割やコミュニケーション技術を理解し説明できる。                  2. 精神症状から起こる問題をセルフケアの視点からアセスメントし、その人の生きる力を支える援助が理解できる。                  3. 対象者が地域で生活するために必要とされる支援と課題について説明できる。                  4. 精神看護における専門性について説明できる。</p>				
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
A	1	第8章 ケアの人間関係		講義
	2	第9章 回復を促す支援		↓
	3	↓		↓
	4	第10章 地域におけるケアの支援		↓
	5	第11章 入院治療の意味		↓
	6	↓		↓
	7	精神に障害を持つ人の理解を深める 当事者のメッセージ		講義／特別招聘講師 デイケア利用者・スタッフ
B	1	第12章 身体をケアする		講義
	2	↓		↓
	3	精神疾患／障害を持つ患者の看護の実際		講義、GW
	4	↓		統合失調症は援助論Ⅱ
	5	第13章 安全をまもる		講義
	6	第10章 地域におけるケアの支援 E 第14章 医療の場におけるメンタルヘルスと看護		↓
	7	第15章 災害時のメンタルヘルス		↓
		学科終了試験		
【使用テキスト】			【単位・成績の認定方法】	
系統看護学講座 専門分野 精神看護の展開 精神看護学② 医学書院			単元A50%+単元B50%の総合評価として 60%以上を合格 評価方法:単元ごとに学科終了試験を行う	
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
15 時間		前回の講義資料を復習する		
【実務経験と当該科目との関連】				
・実務経験がある看護師2名が担当				

**【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】**

分野等	専門・精神看護学	配当学年・時期	3年次・前期	担当講師名
授業科目名	精神看護学援助論Ⅱ	単位数・時間数等	1 単位 20 時間	専任教員
		授業回数	10回	
[概要]				
<p>精神の健康上の問題に直面している人とその家族に対する看護援助方法、援助技術、対応方法について看護過程を展開しながら学ぶ。 また、効果的な看護を展開するための技術を習得し実践へつなげる。</p>				
[目標]				
<p>1. オレム・アンダーウッド理論を活用し事例における看護過程の展開ができる。 2. 精神看護におけるアセスメントの特徴が説明できる。 3. 看護場面の再構成（プロセスレコード）の技法を学び、看護を振り返ることができる。</p>				
授業回数	【授業内容】			学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
1	オリエンテーション	オレムのセルフケア理論の考え方		講義
2	事例による看護過程の展開	事例の提示→情報整理		講義/シミュレーション演習
3		6つのカテゴリーのアセスメント		
4		精神状態、情緒の安定状態などの把握		
5		関連図の作成、看護問題の抽出		
6		計画立案		
7		看護計画実施、評価修正		
8	事例による倫理課題の検討			
9	プロセスレコードを書いてみよう			
10	まとめ			
【使用テキスト】		【単位・成績の認定方法】		
系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 精神看護学② 医学書院		評価方法 提出課題評価（50%）と筆記試験（50%）の総合評価として60%以上を合格		
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
25 時間		前回の講義資料を復習する テキストの関連部分読む 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		
【実務経験と当該科目との関連】				
・臨床経験がある専任教員が担当				

## 【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】

分野等	専門・領域横断	配当学年・時期	3年次・前期	担当講師名	
授業科目名	保健指導	単位数・時間数等	1 単位 30 時間	専任教員 2名	
		授業回数	14回 + 試験		
[概要]					
<p>保健指導に必要な基礎理論として、ヘルスプロモーションについて学ぶ。                      これを学ぶことにより、自己の健康観を自覚することから始まるヘルスプロモーションの考え方に基                      づいた活動を、まずは学生自身でできるようになることを期待する。                      これからの社会で求められる予防活動の知識を学び、看護師の役割として必要とされる保健指導力の                      育成を目指す。                      看護の領域別に学習をすすめ、事例に対する保健指導を考え実施する。</p>					
[目標]					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヘルスプロモーションについて理解できる</li> <li>2. 各領域の健康課題と必要な健康教育が理解できる</li> <li>3. 各領域の健康教育の特徴を理解し、事例にあった保健指導を実施できる</li> <li>4. 自己の健康について考え行動できるようになる</li> </ol>					
授業回数	【授業内容】			学習形態（講義、G W、P P、DVD、等）	
1	ヘルスプロモーションの考え方			講義	
2	ヘルスプロモーションの理論とその活用			↓	
3	各領域に おける 健康教育 の特徴	成人看護学	心筋梗塞患者の退院支援	↓	
4		老年看護学	フレイル予防 運動指導	↓	
5		小児看護学	アレルギー性疾患を持つ子どもの保健指導	↓	
6		母性看護学	喫煙する妊婦への保健指導	↓	
7		精神看護学	うつ病患者の退院支援	↓	
8		地域・在宅看護論	認知症の独居高齢者の在宅生活継続支援	↓	
9		保健指導内容の検討			G W
10		※各領域の事例からグループで保健指導を考える			↓
11	パンフレットを作成し保健指導を実施する			↓	
12				↓	
13	保健指導 発表			↓	
14	まとめ グループの学びの発表			G W 講義	
学科終了試験					
【使用テキスト】				【単位・成績の認定方法】	
新体系看護学全書 別巻 ヘルスプロモーション メジカルフレンド社				学科終了試験 80% グループ学習 参加状況20%	
【自己学習時間】	【事前・事後学習】		【実務経験と当該科目との関連】		
15時間	前回の講義資料を復習する テキストの関連部分読む 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		・臨床経験がある専任教員2名が 担当		

## 【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】

分野等	専門・領域横断	配当学年・時期	2年次・後期	担当講師名
授業科目名	周術期と看護	単位数・時間数等	1 単位 30 時間	外部講師
		授業回数	14回 + 試験	
<b>【概要】</b> この科目では、小児から高齢者にわたる手術療法を受ける患者の身体的・精神的な特徴を理解し、麻酔の種類やその影響、手術侵襲における生体反応や術後合併症予防と発症時の援助を学ぶ。 また、これらのことを理解し、経時的に対象の状態を観察し、身体内部の変化を推測し、最良のケアを提供することができるように、臨床判断の演習を行う内容とする。 そして、周術期における看護師の役割や安全・安楽な手術のための環境管理を学ぶ。				
<b>【目標】</b> 1. 手術療法を受ける患者の身体的・精神的・社会的な特徴を理解する。 2. 麻酔の種類とその影響を理解する。 3. 手術侵襲における生体反応と術後合併症を理解し、その予防と発症時の援助ができる。 4. 周術期における対象の特徴を理解し、臨床判断の方法を演示することができる。 5. 周術期における看護師の役割を理解し、安全・安楽な環境を理解する。 6. 術式による特徴的な手術看護を理解する。				
授業回数	<b>【授業内容】</b>			学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
1	Step1. 手術ってなあに。どんな手術があるの。麻酔ってなあに。			個人ワーク ➡ 協同学習
2	Step2. 手術を受ける小児から高齢者の患者の特徴を調べよう。 手術前の検査ってなにがあるの。目的は何。			↓
3	Step3. 手術患者の不安と看護 *意思決定、インフォームドコンセント、予期的心配、ボディイメージ			↓
4	Step4. 手術侵襲に対する生体反応と回復過程を理解しよう。			↓
5	Step5. 術後合併症って何。その予防をする援助も調べよう。 合併症が起こったらどうする。			↓
6	Step6. 手術前の看護を調べよう。 手術前検査に伴う看護、入院時オリエンテーション、術前オリエンテーション、当日の準備	Step6から胃癌患者胃全摘手術を受ける患者さんの事例シミュレーションを通して考える。		講義（演習）
7	Step7. ①手術中の看護を調べよう。安全・安楽に手術を受けられるための看護～手術前回診、リスク評価、麻酔の種類と準備、麻酔導入時から手術中、終了までの管理 ②手術室ってどんな部屋。			講義
8	Step8. 術後の観察は何のために行うの。 フィジカルアセスメントを組み立てよう。			個人ワーク
9	Step9. 術後のフィジカルアセスメントを行おう。			シミュレーション グループ演習
10				
11	Step10. 安全な早期離床ってなあに。援助しましょう。			↓
12				
13	演習の振り返り Step11. 手術を受けた患者さんが生活をするってどんなことに注意するのか。			個人ワーク ➡ 協同学習
14	Step11. 手術を受けた患者さんが生活をするってどんなことに注意するのか。 まとめ			演習
	学科終了試験			
<b>【使用テキスト】</b> ②～⑦ 医学書院			<b>【単位・成績の認定方法】</b>	
①成人看護学 周手術期看護論〔第3版〕 NOUVELLE HIROKAWA			筆記試験	50%
②周術期の臨床判断を磨く 手術侵襲と生体反応から導く看護			個人ワーク	20%
③専門基礎分野 薬理学 ④専門 臨床看護総論			協同学習	10%
⑤専門 老年看護学 ⑥専門 母性看護学各論			演習時の態度	20%
⑦専門 小児看護学概論 小児臨床看護総論				
<b>【自己学習時間】</b>	<b>【事前・事後学習】</b>		<b>【実務経験と当該科目との関連】</b>	
15時間	個人ワークは、個人ワークシートを課題として授業に臨む 前回の講義資料を復習する テキストの関連部分読む 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		・実務経験がある看護師が担当	

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】

分野等	専門・領域横断	配当学年・時期	2年次・後期	担当講師名
授業科目名	薬物療法と看護	単位数・時間数等	1 単位 30 時間	外部講師2名 専任教員
		授業回数	14回 + 試験	
[概要] 薬物療法中の対象への看護実践において、薬物動態、薬物の作用や副作用・リスク、用量、用法による違いを理解し、その留意点を把握しておくことは重要である。 臨床薬理学の基礎知識（薬の効き目、体内動態、有益性と危険性等）とともに、個々の疾患において薬物療法として使用される薬物の作用機序について学習する。 健康問題を解決するために薬物療法を受けている対象が、薬物療法を円滑にそして適切に行われるように各領域の視点で看護の役割を学ぶ。				
[目標] 1. 薬物療法における看護師の役割を理解する。 2. 健康状態、対象の特性を把握し服薬における看護の基礎的知識・技術を学ぶことができる。 1) 主な薬物の作用や薬物動態について説明できる。 2) 薬剤服薬による効果判定（効果と副作用）が各領域においてできる。 3. 事例を通して薬物管理を目標とした服薬指導ができる。 1) 与薬法（経口、点滴、直腸内、点眼、経皮等）の投与経路による作用や薬物動態の特徴を記述できる。 4. 化学療法の特徴や注意点を説明できる。				
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
A	1	基礎知識【薬物の体内動態と相互作用、薬剤の剤形とその特徴】 対象に応じた薬物療法【薬の効果に影響を及ぼす因子と観察】 自己管理を必要とする対象の薬物療法と看護		講義
	2	特に注意を必要とする対象の薬物療法 ・薬物の排泄機能低下・薬物の有害作用の出現とその理由		講義 事例・演習
	3	・妊婦の時期と胎児への影響　・薬物による授乳と新生児への影響 ・小児の形態的、機能的特徴と薬物の相互作用と影響		↓
	4	自己管理能力が低下している対象の療法 ・自己管理困難者への管理法		↓
	5	在宅で管理が必要な対象の薬物療法 ・在宅での服薬管理の問題と生活への影響		↓
	6	化学療法を受ける対象者　A化学療法の特徴		講義
	7	薬物治療における安全管理【 Medikation エラー】		講義　事例演習　GW
B	1	薬物療法と看護　看護の視点		講義
	2	看護　【成人期】事例：糖尿病（自己注射）		講義　事例・演習
	3	看護　【老年期】事例：心不全		講義
	4	看護　【母性】事例：切迫早産　【小児】事例：喘息		講義　事例・演習
	5	看護　【精神】事例：統合失調症、うつ病、アルコール依存症		↓
	6	看護　【在宅】事例：認知症、脳血管障害 ・在宅療養者が主体的に薬物療法できる患者 ・家族への看護援助		↓
	7	看護　B化学療法を受ける患者・家族への看護援助		講義
学科終了試験				
【使用テキスト】			【単位・成績の認定方法】	
系統別看護学講座別巻　臨床薬理学　医学書院			単元A　50%（筆記試験）	
系統別看護学講座　専門分野Ⅰ 臨床看護総論　基礎看護学④　医学書院			単元B　50%（演習20%、筆記試験30%） 総合評価として60点以上を合格とする	
【自己学習時間】	【事前・事後学習】		【実務経験と当該科目との関連】	
15時間	前回の講義資料を復習する テキストの関連部分読む 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		・実務経験がある薬剤師2名と臨床経験がある専任教員が担当	

## 【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】

分野等	専門・領域横断	配当学年・時期	2年次・前期	担当講師名
授業科目名	エンド・オブ・ライフケア	単位数・時間数	1単位 30時間	専任教員 外部講師2名
		授業回数	14回 + 試験	
[概要]				
<p>超高齢社会は多死社会の到来を意味し、緩和ケアや尊厳ある看取りなど終末期看護がこれまで以上に重要とされている。人が抗うことのできない病や老いによって、それまでの当たり前の暮らしが脅かされ、暮らしかたや生きかたを変えざる得ない状況にある終末期にある人とその家族への看護の理解を深め実践につなげるための基礎を学ぶ。</p>				
[目標]				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 終末期にある人とその家族の特徴を理解し、必要とされる看護を考えることができる。</li> <li>2. エンドオブライフケアにおける看護の役割、チームケアの必要性を理解する。</li> <li>3. 自己の死生観、看護観を深め学習につなげるすることができる。</li> </ol>				
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
A	1	第1編 終末期看護概論		講義 DVD 個人ワーク GW シミュレーション演習
	2	第1章 終末期の理解		
	3	第2章 終末期にある患者・家族の理解		
	4	第3章 終末期医療と看護の理解		
	4	第4章 終末期医療の抱える課題		
	5	第2編 終末期にある患者・家族への看護		
	6	第1章 終末期における患者・家族とのコミュニケーション		
7	第6章 在宅における看取り 第7章 事例で学ぶ終末期看護の実践			
B	1	第2編 終末期にある患者・家族への看護		講義 DVD 個人ワーク GW シミュレーション演習
	2	第2章 終末期における日常生活の支援		
	3	第3章 全人的苦痛の緩和		
	4	第4章 終末期における退院支援・地域連携		
	5	第5章 臨死期の看護		
	6	第5章 臨死期の看護		
	7	第7章 事例で学ぶ終末期看護の実践		
		学科終了試験		
【使用テキスト】			【単位・成績の認定方法】	
新体系看護学全書 経過別成人看護学④ 終末期看護：エンド・オブ・ライフケア 第2版 メヂカルフレンド社			学科終了試験 課題レポート 評価は単元A 50%、単元B 50% 総合評価として60点以上を合格とする	
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
15時間		前回の講義資料を復習する テキストの関連部分読む 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		
【実務経験と当該科目との関連】				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床経験がある専任教員と実務経験があるがん看護専門看護師と緩和ケア認定看護師が担当</li> </ul>				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】

分野等	専門・領域横断	配当学年・時期	2年次・前期	担当講師名
授業科目名	看護倫理	単位数・時間数	1 単位 30 時間	専任教員
		授業回数	14回 + 試験	
<b>【概要】</b> 看護や保健医療の現場で実際に起こっている倫理的課題に気づき、看護師とし患者や家族等の尊厳を擁護するための倫理的判断・行動がとれる素地を養う。				
<b>【目標】</b> 1. 看護実践の場にある倫理的課題に「気づく」ことができる。 2. 倫理的課題を分析するために「参照すべき手がかり」を見つけられる。 3. 倫理的課題の解決のために「なにをすべきか」を考えられる。 4. 倫理的課題の解決のための「対話」の必要性を理解できる。				
授業回数	【授業内容】			学習形態
1	倫理学の基本的な考え方 ・ 倫理とは何か ・ 倫理理論 ・ 他者理解と対話のための理論（ナラティブとは） 生命倫理 ・ 生命倫理とは何か ・ 生命倫理の理論 ・ 生命倫理と看護職の責務 （インフォームドコンセント、守秘義務と個人情報保護）			講義
2	性と生殖の生命倫理 ・ 性の生命倫理 ・ 生殖の生命倫理 （リプロダクティブヘルス、女性の権利、子どもの権利、障害児・障がい者の権利） 死の生命倫理 ・ 死について ・ 死と医療 ・ 死についての生命倫理の課題 （告知、事前指示書・対話、終末期の治療方針・看護師の役割） 先端医療と制度をめぐる生命倫理 ・ 移植医療 ・ 再生医療 ・ 遺伝子医療 ・ 医療資源と医療保険制度			↓
3	看護倫理とはなにか ・ 看護倫理を学ぶ意義 ・ 看護倫理の歴史 ・ 看護の倫理原則 ・ 看護実践上の倫理的概念（アドボカシー、責務、協力、ケアリング） ・ 看護実践と倫理			↓
4	専門職の倫理 ・ 社会からみた看護 ・ 専門職に求められる倫理 ・ 専門職の倫理綱領（ICN看護師の倫理綱領、日本看護協会の倫理綱領） ・ 看護業務基準と倫理実践 ・ 保助看法と倫理			↓
5	看護者の倫理綱領（条文1～16）			個人ワーク
6	看護実践場面での倫理的ジレンマ ・ 倫理的ジレンマ ・ どのようなジレンマが生じているか ・ なにをすべきか			講義
7	倫理的問題へのアプローチ			↓
8	看護研究の倫理			↓
9	事例分析 《事例は状況に応じ変更する》 老年看護における事例分析 小児看護における事例分析 （5歳女児・アデノイド摘出手術前のインフォームドコンセント） 精神看護における事例分析（20歳代前半男性、隔離室への抵抗がある患者の看護） 母性看護における事例分析（21トリソミーの疑いあり、羊水検査を迷う妊婦への看護） 臨床試験における事例分析 （50歳後半女性。肺がんⅢB期。理解不十分のまま治験薬開始。様々な疑問が） 地域看護における事例分析 （78歳女性一人暮らし。半身麻痺を残し退院。生存権は守られたか？）			講義 個人課題 GW
13				
14				
14				
	発表とまとめ			
	学科終了試験			
【使用テキスト】			【単位・成績の認定方法】	
主) 系統別看護学講座別巻 看護倫理 医学書院 よくわかる看護者の倫理綱領 照林社			筆記試験 70% 演習への取組み・課題レポート 30%	
参) 看護倫理：良い看護・良い看護師への道しるべ 改訂第3版 南江堂（講師のみ） 系統別看護学講座 看護学概論 医学書院				
【自己学習時間】	【事前・事後学習】		【実務経験と当該科目との関連】	
15時間	前回の講義資料を復習する テキストの関連部分読む 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		・ 臨床経験がある専任教員が担当	

## 【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】

分野等	専門・領域横断	配当学年・時期	2年次・後期	担当講師名
授業科目名	家族看護学	単位数・時間数	1 単位 15 時間	専任教員
		授業回数	7回 + 試験	
[概要]				
<p>看護の対象となる家族は、地域社会の最小単位である。多様化する家族を捉え、家族の健康問題によって発生する家族の課題を理解し、家族看護過程を展開する基礎を学ぶ。</p>				
[目標]				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の対象としての家族の特性がわかり、多様な価値観をもつ家族を尊重できる。</li> <li>2. 家族を一つの単位として捉える意味がわかり、家族看護の必要性が理解できる。</li> <li>3. 家族を理解するための諸理論・家族看護過程の展開方法を理解する。</li> <li>4. 事例を通して家族看護過程の展開方法を理解する。</li> <li>5. 家族看護における看護者の役割と援助姿勢を理解する。</li> </ol>				
授業回数	【授業内容】	学習形態（講義、GW、P P、DVD、等）		
1	家族看護学とは何か	講義 個人ワーク GW		
2	看護学における家族の理解	↓		
3	家族看護過程			
4	↓	↓		
5	家族における看護者の役割と援助姿勢			
6	事例を通し、家族看護過程の展開方法を理解する	シミュレーション演習		
7	↓	↓		
	学科終了試験			
【使用テキスト】		【単位・成績の認定方法】		
家族看護学 理論と実践 第5版 鈴木和子 渡辺裕子 佐藤律子 著 日本看護協会出版会		筆記試験	50%	
		シミュレーション演習・課題レポート	50%	
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
30 時間		前回の講義資料を復習する テキストの関連部分読む 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する シミュレーション演習		
【実務経験と当該科目との関連】				
・臨床経験がある専任教員が担当				



## 【上田看護専門学校シラバス(授業計画)】

分野等	専門・看護の統合と実践	配当学年・時期	3年次・前期	担当講師名
授業科目名	災害看護学・ 国際看護学	単位数・時間数	2単位 30時間	専任教員 教務課長
		授業回数	14回 + 試験	
<p>＝单元A＝ [概要]                      災害という特殊な状況の中で人々の生命や健康生活を支えるための災害看護の特徴、役割を理解し、災害サイクルの各段階において必要となる看護を実践するための基礎的能力を養う。</p> <p>[目標]                      1. 災害の定義及び災害医療・災害看護の概要を理解する。                      2. 災害が人々の健康や生活に与える影響を理解し、災害サイクルにおける保健医療のニーズと活動の場に応じた看護を理解する。                      3. 我が国における災害対策と災害救助活動を通して国際協力の必要性について理解する。                      4. 災害時に必要な技術の基本を理解し、看護師として一市民として災害に向けた日頃に備えの必要性を理解する。</p>				
<p>＝单元B＝ [概要]                      国際社会における保健医療福祉の実情を知り、広い視野に基づき看護師として国際協力、国境を超える看護の役割と課題について考えることができる基礎的能力を養う。</p> <p>[目標]                      1. 国際看護学の概念や変遷を把握し、国際看護を学ぶ意義やグローバルヘルスについて理解する。                      2. 国際協力のしくみや文化を考慮した看護について理解できる。                      3. 開発協力及び国際救援についてにおける具体的な看護活動について理解する。</p>				
单元	授業回数	【授業内容】		学習形態(講義、GW、PP、DVD、等)
A	1	災害看護・国際看護を学ぶにあたって		講義、GW
	2	災害看護		↓
	3	A 災害看護の歩み B 災害医療の基礎知識		↓
	4	C 災害看護基礎知識		↓
	5	D 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護		↓
	6			↓
	7	E 被災者特性に応じた災害看護の展開		↓
	8			↓
	9	F 災害とこころのケア		↓
B	1	国際看護 A 国際看護学とは		講義、DVD視聴
	2	B グローバルヘルス C 国際協力のしくみ D 文化を考慮した看護		講義
	3	E 国際看護活動の展開過程 F 開発協力と看護		↓
	4			↓
	5	G 国際救援と看護		↓
		学科終了試験		
【使用テキスト】		【単位・成績の認定方法】		
医学書院 統合分野「災害看護学・国際看護学」		筆記試験他 单元A 60%、单元B 40% 総合評価として60点以上を合格とする		
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
60時間		前回の講義資料を復習する テキストの関連部分読む 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		
【実務経験と当該科目との関連】				
・臨床経験がある専任教員、教務課長が担当				

**【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】**

分野等	専門・看護の統合と実践	配当学年・時期	2年次・前期	担当講師名	
授業科目名	医療安全	単位数・時間数	1 単位 30 時間	専任教員 外部講師	
		授業回数	14回 + 試験		
<p><b>[概要]</b>            看護師は、あらゆる臨地において、安全で質の高い医療・看護を提供することが求められている。そのために、療事故防止の基礎的知識を身に付けると共に、臨地における様々な事例を通して、危険を予知する能力と危機回避のための判断力を養う。</p> <p><b>[目標]</b>            1. 看護における医療安全の考え方について理解する。            2. 医療事故の構造と要因について理解し、看護事故防止の考え方を理解する。            3. 診療の補助業務に伴う事故防止について理解する。            4. 療養上の世話における事故防止について理解する。            5. 組織としての医療安全対策について理解する。</p>					
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）	
A	1	医療安全を学ぶことの大切さ		講義	
	2	事故防止の考え方を学ぶ		↓	
	3	組織的な安全管理体制への取り組み 事例を使った事故分析方法の演習		講義 演習	
	4	: SHELLモデル・4M-5E・RCA（根本原因分析）		↓	
	5	組織的な安全管理体制への取り組み 事例を使った事故分析方法の演習		講義 演習	
	6	: KYTトレーニング		↓	
	7	医療安全対策の国内外の潮流		講義	
B	1	診療の補助の事故防止		講義	
	2	療養上の世話の事故防止		講義 演習	
	3			↓	
	4	業務領域をこえて共通する間違いと発生要因		講義	
	5	医療安全とコミュニケーション		講義	
	6	地域における在宅療養者の事故防止		講義	
	7	看護師の労働安全衛生上の事故防止		講義	
		学科終了試験			
【使用テキスト】			【単位・成績の認定方法】		
・医学書院 統合分野「医療安全」 序章、第1章、第8章、第9章 副読本 ・Gakken 医療安全 ・医学書院 医療安全ワークブック			筆記試験 演習レポート等 単元A 50%、単元B 50% 総合評価として60点以上を合格とする		
【自己学習時間】		【事前・事後学習】			
15 時間		前回の講義資料を復習する テキストの関連部分読む 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する			
【実務経験と当該科目との関連】					
・臨床経験がある専任教員と実務経験がある看護師が担当					

**【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】**

分野等	専門・看護の統合と実践	配当学年・時期	3年次・前期	担当講師名
授業科目名	看護管理	単位数・時間数	1単位 15時間	外部講師
		授業回数	7回 + 試験	
<p><b>[概要]</b> 医療チーム及び他職種との協働の中で、看護師としてのメンバーシップ、リーダーシップを発揮し、専門分野で学んだ内容を臨床の場で実際に活用し、看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。</p> <p><b>[目標]</b> 1. 看護の機能を統括的に理解し、管理の実際、人材育成、看護管理者の役割と責任を理解し、看護をマネジメントできる基礎的知識を理解する。 2. 今日の医療、医療保険（診療報酬）の仕組みを理解し、医療チームの一員として看護を実践、遂行できる基礎的能力を身に付ける。 3. 看護師のチームの中でメンバーの役割、リーダーの役割について理解する。</p>				
授業回数	【授業内容】			学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
1	看護とマネジメント			講義 GW
2	看護ケアのマネジメント			講義
3	看護職のキャリアマネジメント			↓
4	看護サービスのマネジメント			講義 GW
5	マネジメントに必要な知識と技術			講義
6	看護を取り巻く諸制度			講義
7	振り返り 看護管理者の役割と責任、看護職が担う役割 他			講義 GW
	学科終了試験			
【使用テキスト】		【単位・成績の認定方法】		
医学書院 統合分野 看護管理		筆記試験 他		
医学書院 看護学概論				
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
30時間		前回の講義資料を復習する テキストの関連部分読む 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		
【実務経験と当該科目との関連】				
・実務経験がある大学准教授が担当				

**【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】**

分野等	専門・看護の統合と実践	配当学年・時期	2年次・後期	担当講師名
授業科目名	看護研究の基礎 I	単位数・時間数	1 単位 15 時間	外部講師
		授業回数	7回 + 試験	
<p><b>[概要]</b>          看護実践における研究の意義を理解し、将来看護師として看護を探究し続ける基礎的能力を養う。          ※基礎的能力⇒問題を意識し解決する能力、論理的思考、科学的な物の見方・考え方、主体性。</p> <p><b>[目標]</b>          1. 看護実践における研究の意義が理解できる。          2. 文献検索の意義・方法が理解できる。          3. 研究テーマの発見の仕方が分かる。          4. 研究計画の立て方が理解できる。          5. 実験研究、調査研究の方法が理解できる。          6. 事例研究の方法が理解できる。          7. 論文構成とまとめ方のポイントが理解できる。</p>				
授業回数	【授業内容】			学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
1	研究とは何か 看護研究における研究の先駆者達 看護専門職者と看護研究 看護研究と倫理的配慮			講義
2	文献検索と文献検討 医学中央雑誌を用いての文献検索 医中誌Webの操作			↓
3	問題の発見 研究疑問（リサーチクエスチョン）の明確化			↓
4	研究計画立案までのプロセス 研究計画書の書き方			講義 演習
5	実研研究とは 実験研究のプロセス 実験研究の限界 調査研究とは			↓
6	看護における事例研究の意義 看護研究の特徴 事例研究の限界			↓
7	レポートと論文の違い 論文の種類 論文の書き方			↓
	学科終了試験			
【使用テキスト】		【単位・成績の認定方法】		
医学書院 看護研究 南裕子著 看護における研究 黒田裕子著 看護研究 他		筆記：70% 文献検索：20% 取り組み・出欠席：10%		
【自己学習時間】	【事前・事後学習】			
30 時間	前回の講義資料を復習する テキストの関連部分読む 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する			
【実務経験と当該科目との関連】				
・実務経験がある看護師・保健師が担当				

**【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】**

分野等	専門・看護の統合と実践	配当学年・時期	3年次・前期	担当講師名
授業科目名	看護研究の基礎Ⅱ	単位数・時間数	1単位 15時間	専任教員
		授業回数	7.5回	
<p><b>[概要]</b>          看護研究の基礎Ⅰでの学習をもとに、ケーススタディを実際に行うことで、将来看護師として看護を探究し続ける基礎的能力を養う。          ※基礎的能力⇒問題を意識し解決する能力、論理的思考、科学的な物の見方・考え方、主体性。</p> <p><b>[目標]</b>          1. 自ら問題状況に気付け、研究的視点を持って解決しようとする姿勢で実践に取り組む。          2. 自己の看護実践を系統立った知識として整理し、看護研究論文（ケーススタディ）としてまとめる。          3. 看護研究論文をもとに発表原稿を作成し、研究発表する。          4. 他者の研究論文を読み、自己の考えを述べる。</p>				
授業回数	【授業内容】			学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
1	研究発表会のためのオリエンテーション 意義と方法の理解			講義
2	領域別実習の中から、一事例を選択し、看護研究論文（ケーススタディ） まとめる 研究論文から発表用原稿を作成 全体発表の場において、自己の研究を発表 他者の研究論文を読み、自己の考えを述べる			領域別実習  個人ワーク：論文作成 個人ワーク： 発表用原稿・ 助言レポート作成 全体発表
7.5	県看護学生研究発表会への出席			
【使用テキスト】		【単位・成績の認定方法】		
医学書院 看護研究 南裕子著 看護における研究 黒田裕子著 看護研究 他		論文作成・ケーススタディ発表会：90% 取り組み・出欠席：10%（県看護学生研究発表会の出欠席含む）		
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
30時間		前回の講義資料を復習する テキストの関連部分読む 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		
【実務経験と当該科目との関連】				
・臨床経験がある専任教員が担当				

**【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】**

分野等	専門・看護の統合と実践	配当学年・時期	3年次・後期	担当講師名
授業科目名	看護の統合と実践演習	単位数・時間数	2単位 30時間	専任教員
		授業回数	15回	
<p><b>[概要]</b>            3年間の学習を統合し、その場の状況と対象の状態を判断し、必要な看護を安全・安楽も踏まえ実践する基礎的能力(知識・技術・態度)を養うためのシミュレーション学習とする。            評価方法としては、OSCE（客観的臨床能力試験）を実施することで、看護実践における判断力（認知）配慮行動（情意）、看護技術（精神運動）の全領域を評価でき、卒業前の学生が自己の課題を明確にすることができる。と考える。</p> <p><b>[目標]</b>            1. 各領域からの課題において設定された目標を、達成できるよう事前学習に取り組む。            2. OSCEに向け、自主的且つクラスメートと協調し、シミュレーション学習を積み重ねる。            3. 技術試験後のフィードバックを受け、自己の課題について具体的に表現する。            4. 実践能力とは何か、個人及びグループで考察できる。</p>				
授業回数	【授業内容】			学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
1	オリエンテーション、事例提示 ※提示は3年前期の早い時期の方が良いか？			講義
2	事例に基づく技術課題：基本的看護技術の領域に関するもの			講義・シミュレーション演習
3				
4	事例に基づく技術課題：成人・老年領域に関するもの			↓
5				
6	事例に基づく技術課題：地域・在宅領域に関するもの			↓
7				
8	事例に基づく技術課題：小児・母性領域に関するもの			↓
9				
10	技術試験（OSCE）についてのオリエンテーション			講義
11	技術試験			模擬患者を対象とした技術試験
14				
15	総括 技術試験のフィードバックと自己課題の明確化 看護実践能力とは何かについての考察			個人W、GW、講義
【使用テキスト】		【単位・成績の認定方法】		
全教科書・参考書		<ul style="list-style-type: none"> <li>・OSCEを用いての評価 80%</li> <li>・レポート評価 10% ・取り組み評価 10%</li> </ul>		
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
15時間		前回の講義資料を復習する テキストの関連部分読む 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		
【実務経験と当該科目との関連】				
・臨床経験がある専任教員が担当				